

助成事業報告集

2018年度助成対象事業要覧



Kiguchi

Kiguchi Foundation
公益財団法人 **木口福祉財団**

も く じ

- **2018年度助成事業の概要** P2
 - 1. 助成事業の趣旨
 - 2. 助成内容
 - 3. 助成予定額
 - 4. 公募
 - 5. 助成対象の選考
 - 6. 選考結果の通知および助成金の交付
 - 7. 対象事業の完了報告

- **2018年度助成対象事業一覧** P4

- **選考委員** P96

2018年度助成事業の概要

1. 助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、福祉活動やボランティア活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

2. 助成内容

地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動やボランティア活動で、特に公的補助を受けることが困難である団体などに必要資金を助成します。

(1) 対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

(2) 対象事業

- ・事業の立ち上げにかかる活動運営費
- ・工事費
- ・備品購入費
- ・調査、研究費
- ・講習会、イベント等の企画開催費

3. 助成予定額

年間の助成金総額 45,000,000円

4. 公募

(1) 公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBでの申請または、申込書類一式を郵送で配付しました。

(2) 公募期間

平成30年2月13日から3月13日まで

(3) 応募件数

157件

5. 助成対象の選考

(1) 一次選考

すべての申込案件について、6名の選考委員が書類選考を実施しました。
一次選考による結果 75件

(2) 聞き取り調査の実施

一次選考を通過した75件について、5月から7月にかけて聞き取り調査を実施しました。

(3) 最終選考

平成30年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額

64件 43,780,000円

6. 選考結果の通知および助成金の交付

(1) 選考結果の通知

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

(2) 助成金の交付

各団体と「助成金に関する覚書」を交わし、振込みで交付しました。

7. 対象事業の完了報告

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

2018年度 助成対象事業一覧

地域福祉振興助成 活動運営

(兵庫県)

P7 フォーワンスペース

(岡山県)

P9 チームクローバー

地域福祉振興助成 工事

(岐阜県)

P11 特定非営利活動法人らいふくらうど

(兵庫県)

P12 特定非営利活動法人神戸西助け合いネットワーク

P13 特定非営利活動法人ヘルパーGOGO

P14 特定非営利活動法人Birth神戸

P15 一般社団法人フォレスト

P16 特定非営利活動法人姫路自立生活支援センター

P18 特定非営利活動法人居場所

P19 特定非営利活動法人五色ホースクラブ

P20 特定非営利活動法人あすてる

P21 ミライエ(障がい者を支援する会)

(島根県)

P22 特定非営利活動法人YCスタジオ

(岡山県)

P23 特定非営利活動法人アポロ 虹色カーサ

P24 社会福祉法人愛徳福祉会

P25 特定非営利活動法人井原はばたき会

(熊本県)

P26 特定非営利活動法人奏気流

地域福祉振興助成 備品購入

(岩手県)

P28 特定非営利活動法人遠野まごころネット

(千葉県)

P30 認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど

P31 特定非営利活動法人真ごころ

(神奈川県)

P32 特定非営利活動法人えにし

P33 特定非営利活動法人障害者支援センター鮎の風

(愛知県)

P35 特定非営利活動法人さぼてんの花

P36 特定非営利活動法人響愛学園

P37 特定非営利活動法人びすた〜り

(京都府)

P39 特定非営利活動法人京都DARC

(大阪府)

P41 公益財団法人大阪YWCA

(兵庫県)

P42 特定非営利活動法人ホザナ・ハウス

P43 特定非営利活動法人すまみらい

P45 一般社団法人Jobs

P46 特定非営利活動法人姫路こころの事業団

P48 特定非営利活動法人出愛いの里福祉会

P50 特定非営利活動法人ほのぼの

P51 社会福祉法人三田谷治療教育院

P52 特定非営利活動法人はた織り工房おりひめ

P53 特定非営利活動法人ボア・ヴィーブ

P54 特定非営利活動法人ざくろ

P56 特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会

P58 株式会社TunagDesign 就労継続支援B型事業所シゴトバ

P59 特定非営利活動法人ネクスト

(奈良県)

P61 社会福祉法人ぬくもり

(岡山県)

P62 株式会社まつい

P63 社会福祉法人めやす箱

- P64 特定非営利活動法人いちご一会
(広島県)
- P65 社会福祉法人三穂の園
(山口県)
- P66 シャイニークルー株式会社
(福岡県)
- P68 特定非営利活動法人花の花
(沖縄県)
- P70 特定非営利活動法人沖縄県脊椎損傷者協会

地域福祉振興助成 企画開催

- (北海道)
- P71 介助犬ファーガスと未来をつなぐ会
(福島県)
- P73 特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター
(群馬県)
- P75 DET群馬
(京都府)
- P77 特定非営利活動法人京都難病支援パッションネ
(兵庫県)
- P79 特定非営利活動法人福祉ネット寿
- P80 TED x Kobe実行委員会
- P82 公益社団法人兵庫県精神福祉家族会連合会
- P84 バディウォーク関西
- P86 特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会
- P88 特定非営利活動法人LIC
(島根県)
- P90 島根県ろうあ連盟女性部
(岡山県)
- P92 特定非営利活動法人岡山県視覚障害者自立支援センター
- P93 特定非営利活動法人玉島たんぽぽ
(熊本県)
- P94 凸凹ライフデザイン

特定非営利活動法人フォーワンススペース

<https://www.fos33.jp/>

【所在地】 兵庫県西宮市

【対象者】 聴覚障がい者、視覚障がい者、発達障がい者、
高齢者

【日常の活動】

○総合支援法

特定相談支援事業、居宅介護、重度訪問介護、同行援護事業

○介護保険法

訪問介護事業

○集い場サロン事業

定期的に開催する。支援メンバーは当事者、情報保証が可能な手話や要約筆記者ができるもの、福祉関係者等を基本メンバーとする。集い場でQOLの向上を図ることを第一目的とするが、高齢化する障がい者の現状を鑑み、福祉や日常生活の相談にも応じる。

○学習啓発事業

福祉専門職等が手話を学習する。聴覚障がい者にも配慮可能な支援者を育成する。講座受講者は近隣ヘルパーステーション、施設、地域包括支援センターなどに声をかける。

「聴覚障がい者向けのサロン事業・高齢化に向けた支援者育成」

実施内容

【助成額】 40万円

◇月2回主に難聴者を対象とした「つどい場」を開催。

・時間は13時半～およそ16時。

① 屋内：15時までを前半、10分休憩をはさみ16時までを後半のプログラムとする。

・前半は簡単な体操や脳ミソトレーニング等スタッフからプログラムを展開する。

・後半は開催日当日の過去にあった出来事や有名人の誕生日、忌日などを「今日は何の日」というタイトルで紹介する。スタッフがその日の内容を紹介しながら、参加者が各自それぞれ昔の思い出や知識を披露したりして話の中心となり、プログラムを展開する。

・その他、軽食メニューを難聴者とスタッフ有志で調理。参加者が昼食・おやつを食べながら交わった。

② 屋外：半日外出を実施して紅葉、コスモス、梅など季節を楽しんだ。

※プログラムを提供するにあたり、情報保障をおこなっている。

・今回助成金で購入したホワイトボード（大）を使い、音声情報（参加者・スタッフの発音等）を文字に変え難聴参加者のコミュニケーションを支援している。

・高度・重度難聴者にはホワイトボードの情報保障だけでなく、隣にノートテイク（ノートテイクができるスタッフ・ボランティア）を配置し、柔軟な情報保障をしている。

・外出時は、難聴者・高齢者の隣にはノートテイクを必ず配置し、安全かつ参加者でコミュニケーションをとりあい楽しめるように配慮を行った。

・「つどい場」の名称を「花ことば」に改称し広報している。

◇難聴者講師による「初めての手話」教室の開催

・月2回開催 10時～12時

・少数で対象は主に地域の健聴者。他、盲ろう者1名、視覚障害者1名、スタッフが参加している。

・手話を学びながら、参加者間で和やかな交わりが持てている。

◇その他

・視覚障害者対象に家電品の取扱い説明書代読、点訳絵本読書サロンをするなど、障害の種別に関わらずに要望のあった活動・事業をおこなった。

得られた効果

福祉サービスを受けている方のニーズはさまざまであるが、ちょっとした相談や断笑できる場所が少ないというのを改めて思った。

市内では、気楽に参加できる場所として高齢者や地域の方対象のものはあちこちで見える。また、障害者団体の会はあり、諸活動をしている。〇〇講演会とか△△会といった社会参加できる機会も多くある。しかし障害者特に聴覚障害者には参加しづらさがあるようだ。受け身ではなく自分の声を出す、普通の会話ができる場所は少ないからである。

障害をもった高齢者や聞こえに不自由さを持つ高齢者の孤立化を防ぎ、共生社会参加への当事者の一歩に繋がるつどい場が認知され増やしていくことが高齢社会の今、必要ではないかと思う。

問題点

- ①市民団体(難聴者協会)との共同がうまくいかなかった。
- ②当団体のつどい場と、難聴者がおこなっているつどい場が同じ時間帯に開催されたことが何回もあり、開催日程の調整の難しさを感じた。
- ③視聴覚機材を使ったプログラム(字幕入りの映画・DVD鑑賞など)の要望があり実施したいが機材がないので断念している。購入が難しいので機材の貸し出し先があれば…と思っている。

次の課題

特になし。



特定非営利活動法人チームクローバー

【所在地】 岡山県笠岡市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- 笠岡市障害者地域活動支援センターⅢ型事業
- グループホーム運営事業(共同生活援助)

「精神障がい者の居場所づくりピアサロンを開設する為の活動運営費」

実施内容

【助成額】70万円

当事者、支援者(保護者等)とともに、互いにホッとでき、気楽に集える場として当事者同士が運営していけるように支援する。又当事者同士が主体で運営していく為にピアサポーターの養成を推進する。そして活動を通してスタッフ、ボランティア、地域住民との交流を通して互いにコミュニケーションや社会性を身につけ社会への第一歩になることを願いつつこの活動を進めていく。

《対象となる人》

- ①精神障がい者、発達障害者(診断の無い者、疑われる者も含む)
- ②日中活動系の福祉サービスに繋がっていない者
- ③就職活動をしていない者、インフォーマルな人間関係が家族だけで完結している者
- ④家から外へ出たいという意向が確認できる者
- ⑤引きこもりの者
- ⑥精神科病院に入院している者で、退院を想定した場合に通う場所の決まっていない者

《運営日及び運営時間》

精神障がい者の人は今まで土曜日、日曜日の居場所並びに支援者の精神的なフォローの場がなく長年の課題でした。

- 運営日…月曜日、水曜日、金曜日、土曜日、日曜日
- 時間…平日は 10:00～15:00 土・日曜日は 10:00～12:00

《食事について》

希望者には実費 300 円程度を集金して昼食の提供をします。

※支援者は常に情報交換を密にし、当事者の思いをしっかりと聞くことにより、不安な思いをなくするようにそしてピアサロンは安心の場であることを感じてもらえるような場にする。

得られた効果

「Aさんの事例」

80代の母親と同居する55歳の男性。母は包括支援センターの保健士が尋ねても介護認定を受けようとしません。息子はいつも母といること息がつまると言ってサロンに来ていました。毎日母親の作った弁当を持って来ていたのですが、息子にすればもっと欲しい物を自由に食べたいが、母に気を遣ってそれは言えない。彼は、A型作業所に行きたい希望を持っているが、母をほっておくことはできない。私たちは、彼の就労支援をしながら、同時に包括支援センターの保健士さんと同伴して彼の気持ちの代弁(何回も分かってもらうまで)をし、お母さんがデイケアへ行くようになり、彼も念願叶ってA型作業所に行けるようになりました。5か月かかりました。ピアサポートを置くことで、土・日に就労のこと、人間関係のことを素直に話せて良かったとの感想を言われます。その人に寄り添っているつもりでも病気を体験したピアサポートの言葉は彼らの心に素直に入ると感じます。

問題点

待つだけではいけないこと。

各方面（笠岡市内の施設、病院、地域福祉課、社会福祉協議会、包括支援センター、民生委員児童委員協議会など）在宅で今まで相談を受けていた親、兄妹などへお知らせしましたが、始めは親が様子伺いに来られるのですが、子どもへの第1歩が出にくい。

困っている家庭への声かけから始まり、何度も話し合うことの大切さを、身をもって実感した。

誰が来られてもOKだけど、本当に出てきてほしい人への気持ちがなかなか伝わらない。

次の課題

現在、社会問題になっている「8050」問題を特に精神障がい者を持った家族の現状に打破できる対応が見つからない。統合失調症に加えて強度の発達障害をもつ中学生。西備支援学校もあまり行けなくて週2日サロンにお母さんと来ています。彼は色鉛筆でお絵かきが好きです。お絵かきも絵にはならないけれど、スケッチブックがなくなるまでかいています。（書くと言うよりぬっています）お母さんに言わせると支援学校に行っているより落ち着いて楽しそうだと言われます。また、彼は30分おきにトイレに行かなければもれてしまうのもお母さんのストレスの元になっています。お母さんはここで話をいっぱいして帰ると胸のつかえがおりたみたいと言われます。本人の状態は変わらないので私たちとしてこれでいいのかなと思う。

開設以来毎日欠かさず来られる男性（40代）過去に仕事に少しの間ついていたが、人間関係がうまくいかず、家に引き込んで10年、今はお母さんに相談を受けていっしょに来てそのまま毎日来ています。その間2回知り合いにお願いして仕事をすすめたがいけない。

本人が、ここがいいとのこと、お母さんも本人がよければと言われますが、それはお母さんの逃げではと思うが、これ以上の対応は困難。

サロンは居場所とは言え、これでいいのかと苦慮しています。スタッフの問題ですが、ボランティアと有償ボランティア、本当は純粋にボランティアを求めたいのだが現状は有償ボランティアなのだろうか？

お金はいらないと言われますが、それでは長続きできないのではと思う。

有償ボランティアを推奨使用すると人件費が続かない。せめてピアサポートだけは1日1,000円位を自腹で払っています。



特定非営利活動法人らいふくらうど

<https://lifecrowd.jimdofree.com/>

【所在地】 岐阜県山県市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

- ①児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
・放課後等サービス事業
- ②障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業
・日中一時支援事業(山県市)

「オーニングテント（乗降用）設置事業」

実施内容

【助成額】23万円

これまで事業所の乗降時に大雨や大雪が降るときに屋根がないところでの車いすの方が乗降は傘をさして行う危険性や濡れてしまっていた。そこでオーニングテントを設置することで車いすの方々も安全で快適に乗降ができるようになりました。

得られた効果

当法人に見学に見える方々にはオーニングテントの利便性について説明するようにしています。他の事業所でも雨天時など対策をしたいと思ってみるところがありますが大がかりの工事では費用も高くなりなかなかできないというお話しもきました。今回のオーニングテントは比較的安価で設置でき、さらに出し入れができるので台風や大雪にも強いということがあるので皆さん興味を持って聞いてくださいました。

問題点

特になし。

次の課題

今後の課題としては地域のお店などにも車いすの方々の乗降時の状況などを発信できるように、現在加入している山県市商工会などにも働きかけていきたいと思っています。



特定非営利活動法人神戸西助け合いネットワーク

<https://www.kobe-tasukeai.com/index.html>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 「就労継続支援 B 型作業所たすけあい」(<https://kobe-tasukeai.jimdo.com/>)
就労困難な障がいのある方に生産活動の機会や、就労に必要な訓練を受けて頂く施設として開所している。
- 「介護ステーションたすけあい」(<http://www.kobe-tasukeai.com/kaigoStation.html>)
訪問介護、介護予防訪問介護、居宅介護、重度訪問介護、移動支援、同行介護、福祉用具販売、福祉用具貸与を行っている。
- 「太陽光発電」
本部屋上に太陽光パネルを設置。関西電力に売電。
- 「なんでも 110 番」
定年退職後の元気なシニアのボランティアによる、地域特有の問題に対処する生活支援活動。引っ越しや家具の移動、草刈り、障子張替え、不用品処分、パソコントラブル、介護タクシー利用、遺品整理等々、核家族化による高齢者が抱える問題に取り組んでいる。
- 「発泡スチロール再生事業」
廃棄される発泡スチロールを回収、減容機による資源再生事業。
- 「てんぷら油回収・BDF 精製事業」
使用済みてんぷら油を回収し、バイオディーゼル燃料に再生させ、トラックの燃料として活用している。

「障がい者通所施設移転に伴う設備改修工事」

実施内容

【助成額】100万円

平成 27 年 7 月に立ち上げた障がい者就労継続支援 B 型事業所 2 店舗の立ち退きにおける移転で神戸西助け合い本部事務所に移転。

1. 備品等として、作業台、椅子、ロッカー、コピー機、冷蔵庫、洗濯機、書庫、商品等の持ち出しと運搬。
2. 什器備品として、クーラー、照明器具、洗面台、トイレ、壁面の棚等それぞれ 2 店分の取り外し工事
3. 床材、壁材、天井材の取り壊し工事

(移転先での改修工事及び作業として)

1. 電気幹線増設工事、クーラー 2 台の取付工事、洗面台の取付、バリアフリー等の工事
2. 備品等の搬入として、作業台、椅子、ロッカー、コピー機、冷蔵庫、洗濯機、書庫、商品等の設置作業

得られた効果

特になし。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



特定非営利活動法人ヘルパーGOGO

<https://helpergogo.net/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

- ・主に重症心身障がい児者を対象とした居宅介護、移動支援、放課後等デイサービス、生活介護事業
- ・障がい児者の地域生活についての情報提供と他団体との交流事業
- ・利用者と支援者が共に学びあい支えあう地域社会づくり事業
- ・障がい児者とその家族及び地域の人たちに対する人形劇などの企画運営開催事業

「重症心身障がい児・者対象の多機能型施設新設のための改修工事」

実施内容

【助成額】100万円

重症心身障がい児者対象の多機能型施設新設のための改修工事を行いました。元々1階2階はひとつのテナントで整形外科が営業していたため、内会談が設置されています。2階は別法人が契約しており、防火のために階段を密封する工事と、現状のテナント内部の仕切りを取り払い、見通しのよいワンフロアに改修しました。

具体的には①間仕切り壁の撤去②トイレの新設③階段の封鎖④ソファの張替⑤目隠しフィルムの張替を行いました。

得られた効果

特になし。

問題点

特になし。

次の課題

現在放課後等デイサービスをご利用されている方で、高等部卒業後、生活介護の利用を強く希望されている方が複数名おられます。さらなる事業拡大をし、ニーズに応えるためには人材確保と人材育成が課題です。また、今回のテナントは、トイレが一番奥にあり、子どもたちの寝転ぶスペースを優先すると、車イスのままアプローチすることができない状況です。次のテナントを借りる際には、導線を意識して探すことが課題です。



特定非営利活動法人 Birth 神戸

<http://birth-kobe.ciao.jp/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 肢体障がい者、視覚障がい者、知的障がい者
精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■障害福祉サービス事業所

「就労継続支援 B 型・Birth 生田川」

当法人の活動テーマである「はたらく」を実現する場

活動内容

- 企業からの受注作業(100均商品の組み立て・健康食品封入)
- 本格スパイスカレーライスの販売(就労継続支援 A 型との連携事業)
- PC 実践サポート(企業への納品書・請求書、デザイン等)

■表現活動レクリエーション(月 2 回・土曜日実施)

当法人の活動テーマである「表現する」を実現する場 ※地域ボランティア等、どなたでも参加出来ます

活動内容

- 音楽パフォーマンス活動
「みんなで音を楽しむ・楽器を演奏する」
アコースティック楽団「Birth コウノトリ」
- Birth 神戸マンガ CLUB 結成
1) (仮称)みんなで創作 Birth 生田川物語コミック本
2) みんなで地域をスケッチしよう

■地域清掃ボランティア活動(毎月 17 日に実施)

生田川公園周辺の自主清掃を実施

「障害者の社会参加の場「Birth 生田川」本格オープン環境整備」

実施内容

【助成額】15 万円

■事業所内トイレのバリアフリーリニューアル

- ・床の段差解消
- ・手すりの設置
- ・照明設置(自動 LED)

得られた効果

今回のトイレバリアフリー改装は、地域ボランティアの方達や身体障害を持つ方達のために工事を行ったが、他の障害を持つ利用者(知的・精神・発達など)や職員の体調不良時にも使用しやすく、作業所全体の環境改善につながった。

問題点

特になし

次の課題

今回の事業を通しての課題は特にありませんが、私達の NPO は立ち上げから 1 年半で資金力が脆弱なため、このような支援基金は非常に有難いです。



一般社団法人フォレスト

<https://itworksopenning.jimdofree.com/>

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援 B 型事業

「施設改修」

実施内容

【助成額】40万円

車椅子利用者等が使用困難であった女子トイレを和式便器2基から洋式便器1基とし、手すりやウォシュレットを装備することで身体障害者用トイレに改修した。

得られた効果

基本的に今回改修したトイレの利用は当事業所のご利用者が中心となるが、事業所が入居するビルには公共職業訓練や通信制高校があり、それらに所属する障がいを持たれた方にも利用していただけ、門戸が広がると考えている。トイレが新しくなったこともあり、初めての身体障がい者の利用サービス開始にもつながった。

問題点

工事業者は値段や工事内容など千差万別であり、見積の段階から複数の業者に依頼するなどの配慮が必要であったと思った。できれば扉を引き戸にしたかったが費用が倍になるため断念した。

次の課題

今回、女子トイレを改修したが、男子トイレは依然として狭い和式トイレのままであり、今後経営が軌道に乗れば改修を検討したい。



特定非営利活動法人姫路自立生活支援センター

<http://www11.plala.or.jp/himejiil/>

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 特定指定相談支援事業所「ぴあ・あくせす」
一人一人の生活の要望をうかがい「自分らしい生活の設計」を立てるための計画書を作成しています。
- 居宅介護事業所「えんじょい」
障がいのある方の自立生活を支援できるように、ヘルパー確保と育成に励んでいます。
提供しているサービス一覧
・重度訪問介護 ・身体介護 ・家事援助 ・移動支援 ・同行援護
- 多機能型事業所「りぶるす」
生活介護では、その人らしさを大切に、考え得る機会を作り、その一つ一つの思いを実現できるようにサポートする事によって、本人のエンパワメント向上を目指します。
就労継続支援B型では、仕事を通して働く事の大切さを知り、自己実現の達成経験を通して本人のエンパワメント向上をサポートしています。

障がい者自立支援活動としては、下記の活動を行っています。

- アテンダント
「えんじょい」にて、公的サービスが利用できない時に有料の介助者派遣を行います。
- ピアカウンセリング
障害を持つ仲間が互いの経験や思いを語り合い、自分らしく生きられるようサポートします。
- 自立生活プログラム
今まで経験出来なかったことを一歩前に出る力をともに考え、目標に向えるようにサポートします。
- 機関誌発行
1年4回の定期発行を各事業の報告や情報の提供を行います。
- まちづくり、権利擁護活動
当事者の立場に立った支援をし、誰もが社会参加できるまちづくりの実現を行います。

「つばさ工房新規拠点での利用者の環境整備・安全強化事業」

実施内容

【助成額】53万円

- 壁面造作、各棚+固定ボックス製作、取付+固定カウンター製作取付一式
限られた活動スペースを有効活用するために、壁面にボックス棚と、カウンターテーブルを設置。
①活動スペース壁面への棚設置 ②活動スペース壁面へのカウンター設置 ③活動スペース柱面への棚設置
④相談室室壁面への棚設置 ⑤トイレ内壁面への棚設置
- 通路窓/3ヶ所、飛散防止透明シート(透明シート)貼り工事一式
ガラス面の飛散防止対策として、飛散防止フィルムの貼り付け。
①相談室内の窓ガラスに飛散防止フィルムの貼り付け(2ヶ所)
②給湯スペースの窓ガラスに飛散防止フィルムの貼り付け。

得られた効果

- 安全強化事業
飛散防止加工のされていない窓(3ヶ所)に、飛散防止シート張りをを行う事で、利用者が安心して施設を利用できるようになる。

○活動整備事業

スチール棚等収納家具を設置し、備品を管理していたので、活動スペースを狭くする事となっていました。壁等の上部に棚を設置することで、収納スペースを確保の確保になり余分な収納家具の撤去が可能となる事で、利用者の活動スペース確保になる。

事業を実施した事により、利用者からも活動スペースが少し広がって嬉しいとの声があったりと、期待していた効果を大いに実感しております。更に、統一された収納スペースを作る事によって、見栄えも良く洗練された施設となったと感じております。お客様が来所し易い環境を作る事になり、販売している作品の売り上げ向上に繋がると言うとても良い効果が生まれております。

問題点

助成申請当初、エスカレーターに面しているガラス面は、不特定多数の方が行き交うので、利用者が落ち着いて活動できないのではないかとシート設置を事業内容に含んでおりました。ですが、自分達の活動を見ていただきたい、自分達を知っていただきたい、という利用者やご家族の方の声もあり、多くの人に見ていただけるプラス面の効果を感じました。そこでエスカレーター面のシート設置をやめ、事業内容の変更を行いました。

しかし、助成が確定後、行政(姫路市)より、利用者のプライバシーを確保する必要があると指導を受けた事によって、エスカレーターに面しているガラス面の目隠しが必要になりました。

次の課題

今回の事業を通して見えてきた今後の課題ではないものかもしれませんが、ご記入いたします。

山陽百貨店の1Fと言う商業施設での活動ですので、平日よりも土曜日、日曜日の方が沢山の人が出入りをしています。

現在のつばさ工房は、平日のみの活動としていますので、このような利点を活かし、土曜日、日曜日などにも活動する事ができれば、計画書の波及効果に記載したように、障がいのある人が身近に生活していて、当たり前で共存していると言うことを沢山のの方に感じていただけるのではないかと期待しております。

このような、活動を広げる為にも、土曜日、日曜日にも活動する日を設ける事、障がいのる方やボランティアさんとの交流の場とする事等、どのように、土曜日、日曜日を活用して行くかと言う事について協議しています。



特定非営利活動法人居場所

<http://www.npo-ibasho.sakura.ne.jp/>

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 視覚障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所と地域活動支援センター

「床リフォーム」

実施内容

【助成額】63万円

サポートセンター西明石の床のほとんどを改修工事する。

- 入口土間
- 作業スペース
- 休憩スペース
- 事務所
- 相談室

得られた効果

床の工事を行った後に当法人が毎年行ってる「NPO法人居場所運営連絡会」を改装のお披露目を兼ねて実施。講演でサポートセンター西明石がある地区の民生委員で明石市民生委員協議会会長の山田信彦さんをお招きして明石市、社協はじめ多くの方の参加があり、またその後も地域や医療、福祉大学、教育機関、企業等の方々を訪され、工事前よりも印象がよくなり、協議や依頼を受けるときに円滑に進むようになったことが挙げられる。

問題点

特になし。

次の課題

サポートセンター西明石は、登録数が40~50名ほどの通所施設で、障がいを持つ当事者さん(メンバーさん)が工事を潜在的に望んでいて、工事後は就労の場として、しんどい心身や身の拠り所としての「居場所」として前より快適に、心地よく利用されていることはメンバーさんからの声や作業プログラム、過ごし方などを見て判断される。ただし、集団で活動し過ごす場として床の改善とプラスαとして居心地のよい空間や環境での工夫が必要なことが新たにわかった。例えば、一人でゆっくり人目を気にせずくつろぎたい、作業は周りのペースに合わせてしんどくならないように個別に自分のペースで作業をしたといった個々のニーズに対応するための環境面での配慮などである。今後も昼食提供がよりスムーズにいくような整備ができるなどの改善をすすめていくことが望まれる。



特定非営利活動法人五色ホースクラブ

【所在地】 兵庫県洲本市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者、発達障がい者、
難病患者

【日常の活動】

周3日を目安にボランティアスタッフを配置し、ホースセラピーを行っている。

平日は柳学園ホースセラピー部を中心にホースセラピー場の世話などを行っている。

現在は2020年東京オリンピックパラリンピックに向けた選手育成を中心に活動している。

「障がい者雇用のための休憩室の設置」

実施内容

【助成額】98万円

○光スチール様より物置工事(倉庫の設置)

クラブハウス内の円滑な人の出入りが可能になった。休憩所の設置が可能ではなかった為、クラブハウスの円滑な人の出入りが必要だった。クラブハウス内の荷物を倉庫に入れることができた。

○クラブハウステラスの屋根の修繕

台風以降、屋根の修繕が必要になり、テラスの屋根を修繕した。雨や風を防ぐ為必要な屋根は早急な修繕が必要だった。同時に床も傷んでいた為、床の修繕を行った。

○床や屋根のペンキ

床や屋根、壁のペンキを塗ってもらった。新たにロゴが入り、来る人が分かりやすくなった。

得られた効果

クラブハウスの屋根やテラスの修繕により、利用者やボランティアスタッフの安心できる場所作りや安全な場所が確保された。

問題点

特になし。

次の課題



年々老朽化により、色々な場所の修繕が必要となった。安全面にも気をつけることにより今後の安全で安心できる場所作りを提供する必要があると考えた。



特定非営利活動法人あすてる

<http://www.eonet.ne.jp/~mignon-chi/>

【所在地】 兵庫県三木市

【対象者】 精神障害者

【日常の活動】

- ◎地域活動支援事業(障がい者地域活動支援センター「みによんち」の運営)
- ◎精神障害関連の医療機関、福祉制度等に関する情報提供事業として「研修会」の開催
- ◎精神障がい者、その家族等と地域住民との交流事業として「ふれあい喫茶」等の運営、または地域イベントへの参加
- ◎社会的偏見を払拭する為の広報活動事業
- ◎一人で外出・通所・通院が難しい精神障がい者等の為の、車による送迎サービス事業
- ◎精神障がい者等の地域における就労支援を進める為の、就労体験・支援事業
- ◎地域貢献事業として地域住民の為の研修講座の開催、または草引きなどのボランティア活動

「障がい者地域活動支援センター『みによんち』施設整備事業」

実施内容

【助成額】81万円

障がい者通所施設としてふさわしい施設環境を整備する為に、次の事業を実施。

- 1) 入浴訓練等に必要給湯器・配管取替工事
- 2) 防火・安全対策として必要な誘導灯設置工事
- 3) 備品老朽化に伴うプリンター、FAX機等の追加購入

得られた効果

今回助成金を活用し、障がい者通所施設にふさわしい施設環境整備をしたことで、今後も障がい者地域活動支援センターとしての目的である「居場所」としての機能を高め、利用者の地域生活をさらに支援していくことが可能になりました。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



ミライエ（障がい者を支援する会）

【所在地】 兵庫県高砂市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

障がい者の余暇支援、スポーツ文化活動として

- ・絵画教室（週1回）
- ・空手及びキッズサーキット教室（週3日）
- ・絵画写真展（年2回）
- ・公募展に応募・里山管理（森の道場）

「便所の改修工事と屋外アトリエの改修工事」

実施内容

【助成額】100万円

絵画教室で描かれた作品を公募展へ応募やグループ展を開催する事により、多くの人々との接点を作っている。ミライエの活動はたきに渡り障がい者本人や保護者にも子育てへの余裕と希望を持たせる役割を果たす事になっている。安全管理、衛生管理は支援の為に最大の課題でありますがお陰様で支援の内容と和の広がりを感じる事ができます。

得られた効果

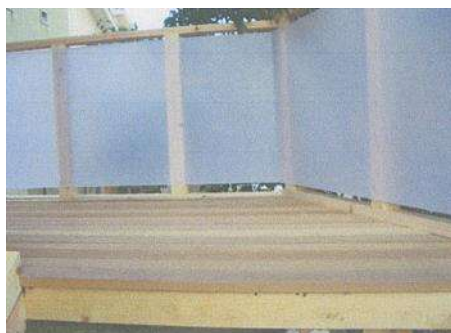
障がい者の屋外での活動により、共生社会への糸口、接点の広がりを感じた。衛生面についても認識を持つようになった。トイレが綺麗になった事で皆の意識が変わった。

問題点

特になし。

次の課題

ボランティア職員を増加させる必要を感じます。障がい者にはそれぞれの個性に特徴があり、マンツーマンに近い状態の指導を必要とする場面が多々出て来ています。



特定非営利活動法人 YC スタジオ

<http://www.yc-studio.org/>

【所在地】 島根県松江市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- ①居場所:ありのままでOK。土日祭日を除く毎日。家族的で自由な居場所。
- ②相談:引きこもり親の会、個人相談。
- ③工房:音楽、ものづくり、DIY、IT、マクロビ料理、スポーツ、農業など。
- ④生活自立支援と分かち合い
食生活の自律:有機野菜を使って、安心安全な食事をとれるように実習。
分かち合い:多世代交流食堂、フードドライブなど。
- ⑤就労支援:仕事づくり、中間就労など。
農と食(キッチン惣)、こだわり市、アートCafé。ブリッジング事業=中小企業家等に繋ぐ。
- ⑥ネットワーク事業:県内子ども若者の居場所交流。居場所の実態調査
- ⑦当事者研究(生きづらさからの当事者研究会)大阪のNPO法人フリースクールフォロ、若者の居場所「なるにわ」との宿泊交流。

「YC スタジオ”シェアキッチン”改修整備事業」

実施内容

【助成額】 72 万円

YC スタジオ “シェアキッチン” 改修整備工事

平成 31 年 1 月 7 日 打ち合わせ (コクーン設計、吾郷建築、ホシザキ中国、トキワ電機店)

1 月 8 日 改修工事着工

2 月 7 日 防災アコーディオンカーテンの設置

2 月 15 日 改修工事完了

2 月 20 日 支払い完了

得られた
効果

特になし。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



特定非営利活動法人アポロ 虹色カーサ

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

研修・啓発事業として、県内外の公共施設に出向き、マナーと社会体験を行います。
交流事業として、地域の方たちと障がい者が互いに交流し地域サロンデイ、ティーパーティー、正会員のお誕生日会を開催している。

「障がい者の方々が安心してさをり製品を制作出来る環境作り」

実施内容

【助成額】51万円

建物に付随しているトイレが築30年以上であり、男性トイレと和式の女性トイレの2ヶ所を洋式トイレ1つに修繕した。

得られた効果

障がい者にとって「トイレ」の環境は大きく、不衛生で座席でない過ごしにくい「和式トイレ」では、日中を過ごす環境に適していなかった。トイレが「洋式」になり、壁紙も美しく清潔になったことで、精神的に不安定に陥った時にひとまずトイレを使用される利用者もいることから、安心して使用できるようになった。また、高齢の障がい者の利用やスタッフも段差がある入り口の取っ手や手すりが設けられたことで安全に使用することが可能になった。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



社会福祉法人愛徳福祉会

<http://www.icity.or.jp/aitoku/>

【所在地】 岡山県津山市

【対象者】 肢体障がい者、聴覚障がい者、視覚障がい者、
内部障がい者、難病患者

【日常の活動】

- 肢体障害者、聴覚障害者、視覚障害者、内部障害者、難病の支援のため
就労継続支援B型「ワークショップ津山」を運営。
- 岡山県、津山市主催のスポーツ文化活動に積極的に参加。
- 地域活動の「出雲街道城車祭」に協賛
- 国、県、津山市及び障害者団体の調査研究に協力

「防犯カメラ 2 台設置工事費助成」

実施内容

【助成額】12 万円

- 津山市道に面した作業所入口（津山市川崎 721）前面に防犯カメラ 1 台を設置して、入口付近及び市道を常時撮影記録して、防犯に役立てる。
- 岡山県道（出雲街道）の柵形（津山市東新町荒神曲）に面した作業所兼展示場入口に防犯カメラ 1 台を設置し、展示場内部及び入口付近の道路を常時撮影し、展示場及び地域の防犯に寄与する。

得られた効果

- 出雲街道は、津山市の観光の拠点となっており、観光客も多い。愛徳会展示場、作業所の屋根は「ノコギリ屋根」として重要伝統的建築群に指定され、日中は展示場の開放が求められているが、職員が不在の場合、防犯上問題があった。此度の防犯カメラ設置により、安心して、お客様をお迎えできるようになりました。

問題点

特になし。

次の課題

- 観光客に多く来てもらい就労支援B型の障害者作業所を少しでも多く一般の皆さんに知って啓発してゆけます。
- 出雲街道に面する一員として、地域の防犯に連なることは福祉施設の地域密着の方針に適するものと思います。



特定非営利活動法人井原はばたき会

【所在地】 岡山県井原市

【対象者】 肢体障がい者、聴覚障がい者、視覚障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

- 生活上の相談と支援 ■地域の人との交流 ■利用者の親睦と研修
- 委託作業(箱折り、糊付け、清掃作業) ■リサイクル回収作業(空き缶、ダンボール、銅線)
- バザー用手芸品、クッキーの製作、販売 ■創作活動(習字、音楽、絵、手工芸品製作) ■リズム体操

「知的障害者作業所の老朽化に伴う部屋及び前庭の環境整備工事」

実施内容

【助成額】25万円

- 作業所床補修工事
床が湿気で盛り上がっていたところの修理
- 窓下架台設置補修工事
窓下の補修
- 整地工事
鉋漕 4t車×6車
重機で固める。



得られた効果

隣接する小学校、地域の民生委員さん、ボランティアの方、他作業所との交流を前庭ですることがあり、前庭を整備することで、より交流が深まり、地域の中での障害者に対する理解が今後深まっていくように努力していきます。

問題点

当初の見積りで実施をお願いしていたが、西日本豪雨の影響で工事の実施が遅れ、工事前日に雨が降っていた為、十分な整地ができなかった。改めて排水工事をする必要性が業者より指摘された。多少前庭の状態は緩和されたが、更なる整備が必要。床補修工事、窓下工事については解消。

次の課題

前庭の排水工事の必要性。



特定非営利活動法人奏気流

【所在地】 熊本県熊本市

【対象者】 肢体障がい者、内部障がい者、知的障がい者、
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

■さをり織り工房

障害の有無にかかわらず楽しめる、感性の織物と言われるさをり織り。

■定期的・不定期なワークショップとして、レザークラフト、編み物、小物づくり、味噌作りなど

■歌声喫茶 毎月一回

■地域のイベントへの参加(マルシェ、活動発表会、クリスマス会、新年会)

「熊本地震で失った厨房設備整備」

実施内容

【助成額】100万円

2016年熊本地震全壊後、再建は当初の予定より相当期間の延長がありました。面した県道2車線の4車線化事業計画、更には区画整理事業にも対象となったことから、図面の手直し、様々な手続きに予想以上の期間が必要になり、更に資材・人材不足が加わり、どんどん完成引渡しの予定がずれこみました。

そしてこの春、やっとほぼ完成となり、正式引渡しの後、法人として賃貸契約の運びとなりました。今回助成をいただき揃えることができた厨房設備、契約後、カフェ部分に合わせての多少の変更がありましたが、無事工事に沿って整備していただきました。キッチン設備は、建設会社を通して、ウッドワンの一式、業務用の冷蔵庫、ショーケース、製氷機については、ホシザキの機器をそろえることができました。

ウッドワンについては、カフェの床に合わせた特性、幅に合わせた変更があり、値引きはしていただいたものの、最初の見積より価格は上昇しました。領収書には、建設会社を通しているため、取り付け費も加わっております。

ホシザキの方も、見積り時点にあった機器が現在扱い不可ということで、やはり価格が上がってしまいました。そのため、提出見積り額との変更あり、となりました。ご了承願います。機器設置に伴う、コンセントの配置等の工事で多少設置は遅れました。

尚、食器棚などを、建設会社をお願いして作成していただいた後、無事保健所の認可も通りました。現在カフェ先行で開始したところです。

工房部分は、外構等の残った工事の資材等がしばらく置かれることになり、整備が遅れましたが、担当が、福岡で営業していたカフェを、完成見込みに合わせて閉じて早々に来熊していたため、一日も早く開きたい思いが強かったこともあります。当面、カフェ先行になるため、営業許可を取りしばらくは福岡での店名そのままKIRAKUという名前で出店です。この後正式に、全体整備終了後、工房部分活動開始とともに、コミュニティーカフェかなでとして全面開始することになっています。

得られた効果

面する県道の4車線化や区画整理事業計画もあり、周りは更地が増えている状況です。人通りも少なく心配しましたが、以前のコミュニティーカフェ利用者に加えて地域の方々がいらして下さるようになっていきます。

野菜や花をもって来てくださる方、グループ活動で予約利用して下さる方々などもあり、一番の被災地だった益城木山の地にできた寄り合える場所を喜んでもらえています。

代表宅個人の、地震後家財を預けていたコンテナ、そして下敷きになっていたキャンピングカーも修理、改造して法人活動に活用することにしました。作業場、集会場として地域の区長などと今後の地域での活用の仕方を話し合っております。カフェは、時には男性のみの料理教室や、料理自慢の一日シェフなどにも、楽しく活用したいと思っております。また、みなし仮設に住む被災者支援を行っている団体との連携により、孤食を防ぐ食事会、障害者グループとの連携によるピアカウンセリングの場（工房の方で主軸のさをり織りでは、今回身体障害者対応ユニバーサル仕様の織り機も導入しました。）、地域の中学校支援学級の職場体験への仕事場提供など、計画が進んでいます。

工事会社との付き合いが長くなったせいで、いえ、おかげで、私たちの活動について、理解していただき、好意でカフェや工房に棚を作っていただくボランティアとして参加していただいた、という嬉しい現象もありました。

地域の方々に活用していただく場として、多くの人を巻き込んだ運営を目指していきます。

問題点

特になし。

次の課題

地震以前の活動は、障害者の娘を持つ母親中心のボランティア運営でした。今回助成をいただけ、本格的な厨房設備を整備したカフェとして始められたことで、より多くの方にこの場所を認知してもらえるようになりました。コミュニティーカフェとしての活動が本格化しましたら、できたら地域通貨的なものを流通できるような力量を持ち、地域の方々の出番を増やせるようにしていけたら、と思っています。被災地での再出発だからこそその発想を深めていきたいです。



特定非営利活動法人遠野まごころネット

<http://tonomagokoro.net/archives/52969>

【所在地】 岩手県遠野市

【対象者】 肢体障がい者、内部障がい者、知的障がい者、
精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

障がい者就労支援事業 事業所番号 (0 3 1 2 9 0 0 1 1 1)

主たる事業所:まごころ就労支援センター釜石

従たる事業所:まごころ就労支援センター大槌

事業内容

・就労移行支援(定員 6 名) ・就労継続支援 A 型(定員 10 名) ・就労継続支援 B 型(定員 25 名)

「障がい者による被災地の新しい地域活性化のしくみづくり」

実施内容

【助成額】100万円

東日本大震災から 7 年が経ち、被災地域の復興も徐々に進んでいる。そんな中でも社会的弱者と言われる地域の障がい者が復興から取り残されない様な新たな取り組みが必要とされている。また日本国内同様に被災地でも精神障がいを抱える方々が増加傾向にあり、まごころ就労支援センターでは、農作業を定期的な支援プログラムに取り入れ、メンタルケアにつなげ、さらには自立を目指すためにより高い工賃を得ることで経済的、社会的自立を目指せる事業。

実施内容

1. 30 年 4 月-5 月

就労支援施設近隣の農地を借入して(約 600 坪・新規)、圃場整備を行う。

2. 30 年 4 月

ワイン用ぶどうの植樹 ※釜石市甲子町および遠野市綾織町の圃場

3. 30 年 5 月-31 年 3 月

定期的な管理を就労支援利用者に仕事として提供



・ワインツーリズムの受入れ:2 件/一般参加人数 10 名

・イベント参加:6 件/来場者数 4,500 名以上(日本ワインフェスティバル 2,500 名、盛岡ワインフェスティバル 400 名、釜石駅前イベント 500 名、釜石ワインフェスティバル 500 名、いわてワインを楽しむ夕べ 300 名、東北ヴァンダジェ(東京都内 300 名)

得られた効果

被災地の地域活性化、地域住民の希望や楽しみ、交流人口の増加、葡萄園を中心としたワインツーリズム(新しい観光客層の獲得)が障がい者就労の雇用につながり、地域資源として地域ブランドを生み出し、経済効果(宿泊、飲食店等)を生み出すことで持続可能な地域活性化を実現していると感じています。特に、障がい者の就労支援施設は地域社会では活動内容が見えてこないことが多い中で、ぶどう栽培、ワイン造りを通してさまざまなイベントでの活動紹介が出来ることで、利用者自身の意識も高まり、作業に創意工夫をする利用者が多く見られた。

問題点

特になし。

次の課題

より高いレベルでの作業提供(ぶどう栽培、ワイン造り)に必要な研修が必要と考えています。



認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど

<https://fnm2011.okoshi-yasu.com/>

【所在地】 千葉県松戸市

【対象者】 肢体障がい者、聴覚障がい者、視覚障がい者、
内部障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病者、高齢者

【日常の活動】

1. 障害者総合支援法に基づく事業
① 居宅介護サービス ② 重度訪問介護サービス ③ 同後援後サービス ④ 移動支援サービス
⑤ 相談支援サービス
2. 介護保険制度に基づく事業
① 居宅介護支援サービス、② 訪問介護サービス、
3. その他国や自治体の制度に基づく事業
① 松戸市元気応援サービス
4. 余暇支援
① 年2回のお出かけレクリエーション、② 月1回の映画会、③ 年1回のスポーツ大会、④ 絵手紙などカルチャー講座(月10回)
5. 権利擁護
① 年4回学習会

「階段なんかへっちゃら～車いすで街へ出ようプロジェクト可搬型階段昇降機 購入及び操作講習会開催」

実施内容

【助成額】100万円

可搬型階段昇降機(JAMAX、専用車椅子付き)購入

<操作講習会>

10月16日(月)3名 11月27日(月)5名 12月14日(金)5名、

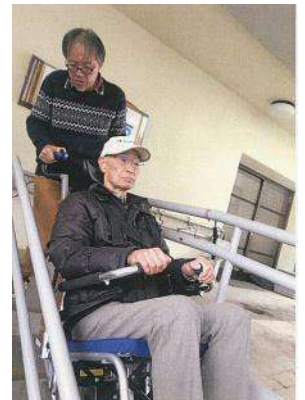
1月23日(火)2名 3月4日(月)4名

合計5回19名

<外出支援活動>

11月0回、12月6回、1月12回、2月10回、3月8回

合計36回



得られた効果

1. 移動困難者の外出が容易になり、障がい者の社会参加が進みました。
2. ボランティアが新たな領域で活動することができるようになった。

問題点

階段昇降機の操作講習会を実施する段階で、テクノエイド協会の受講条件が70歳以下となっていることが判明しました。弊会のボランティアの6割が70歳～75歳のために、この条件が法的に問題になるかを調べる必要があった。

次の課題

操作講習会のフォローアップ研修会を開催し、安全性の担保を図りたいと思います。

特定非営利活動法人真ごころ

<https://npomagokoro430.wixsite.com/mysite>

【所在地】 千葉県柏市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

①児童通所施設

◆放課後等デイサービス

1. まごころ (柏市松葉町)
2. まごころ「とよふた」(柏市十余二)
3. まごころ「スイミング」(柏市宿連寺/児童発達支援)

②相談支援事業所

まごころ相談支援室

「障がい児専用プールでの水泳療育中の安全対策」

実施内容

【助成額】56 万円

【物品の購入】

①AED本体 & 収納ボックス

設置日:平成 30 年 8 月 20 日 AED機器使用方法講習会:平成 30 年 8 月 22 日

AED機器の販売元業者の方が来られて、使い方の説明を受けた。保護者への設置の説明を随時行った。

②プールフロア 5 台

納入日:平成 30 年 8 月 20 日 使用開始日:平成 30 年 8 月 21 日

今まで 3 台のみだったプールフロアがプラス 5 台増えたことにより、

- ・水中運動や水中サーキット練習のバリエーションが広がった。
- ・未就学児や低学年の子供達の安全確保ができた。
- ・水慣れ階段の子供達に安全な指導ができた。



得られた効果

AEDを設置したことで、法人内の全職員の救急救命の事に関する意識が高くなった。また、近隣の消防署から専門的にAED講習を開くことができた。まごころ「スイミング」玄関にAED設置施設と表記しているため、近隣の方々などの万が一の時に役に立つのではと思う。

問題点

特になし。

次の課題

今後も救急救命については、職員が高い意識を継続していくことと、定期的にAED講習を開催していくことが課題です。



特定非営利活動法人えにし

<https://npoenishi.wixsite.com/enishing>

【所在地】 神奈川県藤沢市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

・指定障害福祉サービス事業所(就労継続支援B型)

『地域カジュアルサポート』業務の拡張に伴う備品整備

実施内容

【助成額】60万円

- A. 主に高齢単身世帯を中心に、個人宅からの依頼によるお庭のお手入れ(芝刈り・庭木の剪定・ゴミ出しなど)を請け負う業務のための備品購入。
- B. 小学校低学年を対象としたデジタルイラストの絵画教室開催のための備品購入。



得られた効果

(波及効果)

依頼の内容にこだわらず、「何でもやります」という姿勢が高く評価され、地域の社会福祉協議会やボランティアセンター、高齢者施設、小中学校等の関係者との連絡・連携のパイプを作ることに繋がりました。

(社会的価値)

今回の事業活動の広報を通して、地元の高齢者福祉施設や小中学校の特殊支援学級の生徒さんとの繋がりが生まれたことで、障害のある方の幼年期～青年期～老年期を通したシームレスな支援の在り方や、それぞれの時点での「将来像」を地域で共有するきっかけとなりました。

問題点

事業計画当初は、草刈り等の業務については事業所周辺の地域住民が顧客の中心となることを予想し、それを期待していましたが、実際には法人からの相談・依頼が多く、比較的規模の大きい依頼が中心となったため、作業に従事できる利用者にやや偏りが生じています。

次の課題

今年度の事業の実施状況では、やはり、当初の狙いの大きな柱であった「地域との繋がり」の面でまだまだ満足できる結果にはなりませんでした。今後継続して、より具体的に地域の各ご家庭との繋がりを作っていかなければならないと考えています。



特定非営利活動法人障害者支援センター鮎の風

<http://ayunokaze.net/>

【所在地】 神奈川県厚木市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援 B 型 ・クリーニング事業 ・自主製作活動(雑巾、ウエスの縫製など)
その他事業 ・地方自治体からの業務委託 近隣の公園清掃 キャンペーン啓発物品の製作
・カフェ「ニューベリーストリート」の運営 障がい者が社会で働く場として開設

「障がい者の就労支援に係るクリーニング用洗濯機の買い替え」

実施内容

【助成額】100 万円

事業所内にある洗濯機のうち、老朽化のため使用不能となっている既存洗濯機を撤去。その後、配管工事を行い、新たな洗濯機を設置した。

・品名 業務用洗濯機 アイナックス I-221W 1台

得られた効果

- ◎新たな洗濯機が設置されることへの利用者の関心の高さ、モチベーションの向上
設置日時が近づくとつれて、「今度、新しい機械が入るね。」とか「とても楽しみです。」といった言葉が多くなり、設置前から作業スピードが早くなった。また、新品の洗濯機を直接、目にすることで笑顔が多くなり、能動的に操作を学ぼうとするなど、モチベーションが向上し、事業所内の雰囲気も明るくなった。
- ◎現場の環境変化を利用者へ円滑に伝えるための支援のあり方
古い洗濯機から新しい洗濯機へと変わるため、利用者の操作面での適応が危惧されたが、既存の乾燥機と同じマイコン（ボタン仕様）であったためスムーズに馴染むことができた。日々、見慣れていた洗濯機が変わっても、直接、触れるマイコンが同一で、支援者側が従前どおりにプログラムを設定しておくことで、利用者への支援（説明など）においても、特段の支障は生じなかった。この経験は、突然あるいは想定外の変更に対応が苦手な障がい者への就労環境を、どのように整備すべきかという点を実感できたよい機会となった。
- ◎第2施設へのウエス原材料の提供
新洗濯機の導入により作業効率が向上したため、余裕ができた時間を第2施設で使用するタオルなどのウエス原材料の生産に充てることができた。結果として、第2施設のウエスの売上アップにつながった。
- ◎社会的価値
クリーニングによりタオルや衣類を洗濯、乾燥させ再利用することで、大量生産、大量消費といった消費行動を抑え、資源循環型社会の形成、エンカル社会の実現に寄与できた。本来、公的支援を受ける立場であっても、クリーニング事業を通じて「障がい者が主役となり、社会に貢献する障がい者支援施設」として、その一端を担うことができた。
- ◎総論
今後も、生産性を高め工賃の向上を図っていく上で、老朽化した機械の更新を随時、実施していく予定であるが、今回の導入において、利用者が実感した喜びやモチベーションの向上、有効な支援方法の発見、資源の再生利用による社会貢献は、単に機械の更新にとどまらず、事業所全体の経験値を大きく高めるものとなった。

問題点

特になし

次の課題

◎計画的な機械装置の更新

既存の洗濯機および乾燥機に、製造中止となり交換用部品の調達ができないものがあるため、使用不能となる前に、引き続き計画的に更新していく必要がある。

◎潤沢な洗濯用水の確保

新洗濯機の導入により作業効率が向上したが、水量(井戸水)不足により洗濯機の稼働調整が生じている。今後、安定した生産ラインの確保のため井戸掘りボーリング工事や貯水タンクの設置などを検討する必要がある。

◎平均工賃額の向上

平成 30 年度より障害福祉サービスに係る訓練等給付費が、前年度の平均工賃額に基づいて段階的に設定される措置が講じられた。今後は機械の更新による生産性の向上と合わせて、受注する業務の選別、採算性や、費用対効果を見極めながら、効率的かつ収益性の高い事業所の運営がより一層求められる。



特定非営利活動法人さぼてんの花

<https://ameblo.jp/saboten87pun10/>

【所在地】 愛知県一宮市

【対象者】 重症心身障がい児

【日常の活動】

児童福祉法に基づく障害児通所支援（児童発達支援及び放課後等デイサービス）事業を2ヶ所で行っています。

左記事業のほかに、重症心身障がい児・者とその家族、関係者ととも、「旅行会」や「映画の上映会」、「音楽療法の会」等、各種イベントを実施しています。

「重症心身障がい児デイサービスの防災備品整備」

実施内容

【助成額】16万円

防災用品一式を整備のうえでそれらを活用し、利用者・職員が災害の発生によって起こる様々な危険に適切に対処して安全に行動できるようにする「防災教育」の充実を図った。

その際には、利用者が「防災弱者」であることを念頭に置き、ヘルメットの着用が困難であっても「耐衝撃性」「防災性」に優れた防災ずきんで頭部を保護し、同時に緊急時であっても利用者が安楽な姿勢を保てるよう、エアマットや毛布を効果的に活用した、障がい者の特性に配慮した防災の実現を図った。

また、上記を踏まえながら、月々の防災訓練を実施した。

得られた効果

事業の様子をインターネットのSNSを通じて公表したところ、各方面からの反響があり、障がい児福祉の場における防災意識の向上につながったと思う。また、今回の事業計画の期間内にその機会はなかったが、今後地域の福祉イベントへの出展を通じて、障がい児福祉の場における防災意識の向上や底上げに貢献したいと考えている。

問題点

特になし。



次の課題

本事業を通じて、防災備品の準備はできたが、日々の業務の中で防災訓練を行う機会をいかに確保するかが課題となった。そのためにも、防災に対する意識をより高め、職員の一人一人が訓練の必要性を十分認識し、積極的に防災訓練に取り組むことができるように、継続して啓発を行っていきたい。

特定非営利活動法人響愛学園

<http://kyoai-gakuen.com/>

【所在地】 愛知県一宮市

【対象者】 肢体障がい者、視覚障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- ①児童福祉法に基づく障害者通所支援事業
主に0歳から18歳までのあらゆる障害者が利用。音楽とアートを指導。療育的また、教育的に指導し、学校生活に役立つカリキュラムで行い彼らの創造力や、隠れた才能の発掘研究実施
- ②障害者総合支援法による地域支援活動事業実施
18歳以上の障害者の通所施設。主に楽器製作、織物を行い販売。音楽や、アート活動で推進。また、自立をめざすための工賃設定もし、彼らのQOLを目指す

「就労移行支援B型事業所への移行に伴う備品の購入」

実施内容

【助成額】98万円

- 「kyoai 小さな芸術の森」へ移転し、就労継続支援B型事業所ハミングに移行しました。
- エアコン4台購入しました。事業所の環境を整えました。
- 手織り機3台購入しました。
 - ・利用者さん全員が手織りをすることが出来ました。
 - ・手織り教室を開催し、一般の方にも手織りを体験していただけるようになりました。
 - ・利用者さんの給与実績は、手織りの工程をポイント制にし、利用者さんの技術向上と工賃アップが実現しました。
 - ・利用者さんの意欲ややりがいが見られました。
- ナノキャット加工剤を購入しました。
 - ・完成した生地に「ラーフエイド工法(ハイブリット触媒加工)」を施工しその生地でファブリックパネルを製作しました。



得られた効果

就労継続支援B型事業所ハミングの手織りの仕事で、地域の方とつながる「織りカフェ」プロジェクトが立ち上がりました。準備段階から地方の方々が見学にみえ、地元の協力者さんがカフェのスタッフになってくださるなど、波及効果が現れています。

問題点

特になし。

次の課題

織りカフェを運営していくにあたり、集客が今後の課題となります。一宮市はモーニングカフェ文化があり、たくさんの喫茶店があるため、営業競争の面では難しいと考えます。ですが、手織りはめずらしく、他には無い為、地域の中で徐々に認知してもらい定着していきたいと思えます。



特定非営利活動法人びすた〜り

<https://bistaar.or.jp/>

【所在地】 愛知県知多市

【対象者】 精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- ・特定相談支援事業
- ・委託障害者相談支援事業
- ・精神障がい者自身による、アウトリーチ（訪問）活動
- ・精神障がい者、発達障がい者による、病気や障害の経験を語る「語り部」養成活動

「精神障がい当事者によるアウトリーチ活動用の車両取得事業」

実施内容

【助成額】76万円

日中活動の場等に現在つながっていない方（ひきこもりに苦労している当事者）の自宅へ当事者スタッフがバディを組んで定期的な訪問を実施する。

“家の中からなんとか一歩でもその人を外に出す”働きかけではなく、ひきこもり経験や似た体験や症状があるという強みを生かして、当事者スタッフが引きこもり当事者との対話を繰り返しながら、社会との信頼回復、自己との信頼回復を目指す。また、福祉サービスや医療の情報提供等、必要に応じて関係機関との連携も行う。訪問回数はアウトリーチ対象者にとって過度な負担とならない回数を随時検討し提案する。

得られた効果

同じ病気がある、似たような経験や体験がある、それだけではお互いのことを理解しあうことはできないということを感じ、自分の病気や障がいについての知識についても知らないことが多いということを感じ、学びきっかけとなりました。“同じ病気や診断のある同士でも、病気の症状の出方やパターンにはどのような個人差があるのか”“他の病気や障がいの仲間の理解しきれない言動や行動にはどのような現象が起きているのか”など、仲間で学び合う活動の必要性を感じ、上述の新事業を実施するに至りました。

また、初めてアウトリーチ訪問を実施した1か月後に、社会とのつながりが希薄だった本人がライフサポートステーションふるばに約束なしで自ら来所されたことがありました。「なぜ、その人の元に行くのか」という訪問の目的を、訪問する者それぞれがもつことの大切さを知り、訪問を重ねる中で、“私たちが何かを伝えに行く”のではなく、“相手から何かを教えていただく”ということによって、同じ病気がある、例えば季節の移り変わりに生じる苦労の共有だったり、同世代だから分かり合える話題での話、または世代が違うからこそ「まだ若いんだから」と励まされることなど、訪問する側である当事者スタッフの助けや参考になることがあることが分かった。

問題点

社会参加をあきらめて引きこもっている人が、必ずしも訪問する側を「来てくれてありがとう」と、前向きに引き受けてくれる人ばかりではありませんでした。訪問日を待ちわびながら他社とのつながりを期待している人ばかりではない、私たちはその肝心な部分を失念していた。

「自分に何の用があるのか」「安否確認なら電話でもできるのではないか」という言葉を受けながら、「対話」を呼びかけることの難しさと、「専門職として」ではなく、どういう目的で我々は引きこもりの当事者に対して訪問をし続けるのかというアウトリーチの真意を問われることとなった。

次の課題

今後も、当事者という「対等な」関係性を生かした訪問事業は、社会とのつながりが希薄になっている引きこもりの人とのつながりをもつうえでも大変有効な実践であると考えています。一方で、社会とのつながりをあきらめて引きこもっている人たちは、社会とのつながり自体が希薄になっているため、その人たちと地域で会うにはどのような方法があるかという課題が浮き彫りになってきました。

現在はIT化も進み、近所の助けを借りなくても生活ができる便利さが増したことにより、向こう三軒両隣のつながりは希薄になり、個人の情報についての取り扱いにも敏感にならざるを得ない風潮もでてきました。

引きこもっている自分の子どもを周りに知られたくないと思ってしまう親や、近隣に引きこもりの人がいることを知りながらも自分がどのようにしていけばよいのか分からず声をかけられないという人たちが私たちの情報を仕入れていないなかでも、もっと多く存在しているのではなかろうかという仮説が経ちました。



特定非営利活動法人京都 DARC

<http://www.kyoto-darc.org/>

【所在地】 京都府京都市

【対象者】 内部障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 障害者福祉サービス事業所としてデイセンター「マハロ」にて自立訓練(生活訓練)事業を行っています。
- 指定共同生活援助(介護サービス包括型)事業を「ネクサス1・2」にて行っています。
- 「マハロ」にて昼食作り、農作業、運動プログラムなどの就労支援、社会復帰事業を行っています。
- 「マハロ」にて地域社会に根づく活動を目指し、お祭りなどの行事への参加やお手伝い、地域の公園や川沿いの清掃ボランティアなどを行っています。
- 2017年度からシェアハウスとして「ネクサス3」を運営しています。
- 矯正施設で行われる「薬物離脱教育」に講師派遣を行っています。
- 学校や関係各所に対して、薬物乱用防止に関する講演、情報の普及啓発活動を行っています。
- 京都府が行っている認知行動療法プログラム「OPEN」に講師派遣を行っています。
- 京都市が行っている認知行動療法プログラム「KEEP」に講師派遣を行っています。

「事業所内のIT強化を目的とするパソコン購入」

実施内容

【助成額】43万円

- スタッフが使っているパソコンの内、老朽化しているパソコンモニター5台、タワー4台に換えました。そのことにより利用者の方の支援計画や各事務作業の効率化に役立っています。そのことにより、利用者の方との交流する時間やプログラムと一緒に参加する時間を増やすことができ、京都DARCの特徴である「セルフヘルプ」の理念をより一層、推し進めることが可能になりました。
- 利用者の方が音楽や、趣味についてインターネットで調べることが出来るようにパソコンを共有スペースに設置しました。休憩時間を無駄なく過ごすことや、WordやExcelの練習も出来るようになりました。利用者の方のスキルアップに繋がり、就労に向けての支援が少しですが可能になりました。

得られた効果

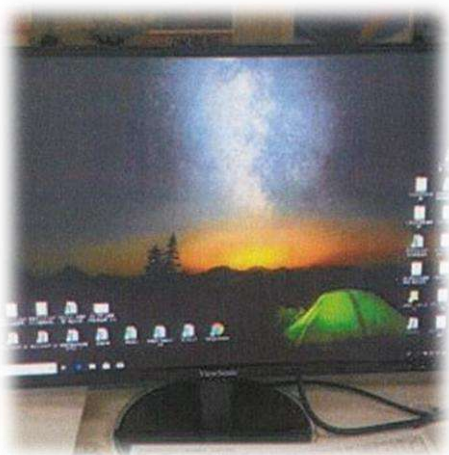
- 京都DARCで行っている事業は先ず、薬物の問題を抱えた利用者の方に「薬物が不要でない新しい生き方」を身に付けることを目的としています。自分のことを正直に話すミーティングを通じて、自身と向き合う生き方を学ぶこと、人との関わり方を学ぶことなどの効果があります。DARCの利用には2年間(必要に応じて3年間)と期限があり、あとは自助グループへの参加に移行します。薬物依存症と向き合いながら、いずれは社会の中に戻って行きます。その過程で社会に受け入れられることや、就労に就くことは自身も経験していますが大変なことであるのが現状です。社会参加や社会復帰に向けての不安などを抱えている中で、パソコンに触れ、色んなことを調べたり、WordやExcelの練習をすることで、自信ややる気、自己肯定感を高める効果が少しずつではありますが出ています。また、DARCでのプログラムを続け、スキルを身に付け、少しでも社会復帰に向けて頑張ること、社会の中で再発することなく薬物を使わずに生き続けることは本人のためのみならず、社会全体に大きな価値があることだと再認識することが出来ています。
- スタッフに関しては、パソコンが新しくなったことで、当初の効率アップに結びついています。

問題点

特になし。

次の課題

■パソコンに触れることで経験のある利用者の方は楽しみながら使えるのですが、全く経験のない利用者にとっては教えてもらいながら、インターネットの使い方くらいは出来るようになるのが現状です。より一層、みんながスキルアップ出来るようになるためには、パソコン教室に通うか、DARCに講師を招き教えてもらうことが望ましいように思われます。金銭的なこと、利用者の方がみんな、自分のレベルに合わしながら楽しんで出来るように成れることが今後の課題だと思っています。



公益財団法人大阪 YWCA

<http://osaka.ywca.or.jp/index.html>

【所在地】 大阪府吹田市

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

- ① 図書室の蔵書となる点字本の製作。
選書→点訳→校正(3回)→点字打ち出し→製本
- ② 図書室としての作業。
製本された点字本を蔵書として登録→貸し出し→返却本の整理
(点字図書の貸し出し、返却は郵便法により無料)
新しくできた本の紹介を「子どもの点字本」として3か月に1度作成し、貸し出し先に配す。
5年に1度、「蔵書目録」を配す。
- ③ 視覚障がい児が通う小・中・高・大学の副読本、問題集、テキストの点訳。
- ④ 統合教育校の教科書の点訳(社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センターより受注)。
- ⑤ 高校などの点訳クラブや他団体の点訳講習会に講師派遣。
④と⑤が有料なので、セルフヘルプ活動です。
以上の運営をすべてボランティアが行っています。

「点字両面同時プリンタ ESA919 の購入」

実施内容

【助成額】97万円

両面点字プリンター(ESA919)の購入。



得られた効果

- ① 急ぎの教科書の点訳依頼があった場合などに早急に対応できるようになりました。
- ② 今まで外注していた「子どもの点字絵本」(新刊案内)を当図書室で印刷できるようになり、その費用が削減できる。
- ③ 5年に一度の「蔵書目録」も当図書館で製作できるとその費用も削減でき、メンバーの負担が軽くなります。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



特定非営利活動法人ホザナ・ハウス

<http://hozana-house.com/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

- 児童発達支援・放課後等デイサービス「ホザナ・ルーム」…知的・身体・発達障害児の支援。
- 就労継続支援B型作業所「ホザナ・ファクトリー」…障害者の就労支援。
- 児童自立援助ホーム「カリス・ホーム」…児童養護施設出所者の自立支援。
- 「ホザナ・ハウス ガールズ・シェルター」「ホザナ・ハウス ボーイズ」
子供の権利条約第 20 条「家庭環境にとどまることができない子どもは、特別の保護と援助を受ける権利がある」を履行するために活動している。

「障害児の送迎車購入」

実施内容

【助成額】100 万円

老朽化した児童送迎用車両の入れ替え

得られた効果

夏休みに入る直前にA/Cが故障するアクシデントが起き、子ども達が苦しい思いをしましたが、間もなく新車両が入った事で、子ども達に想像以上の感謝の心が芽生えました。

問題点

特になし

次の課題

与えられた物品を大切にする思いを子ども達に教えて行きたい。



特定非営利活動法人すまみらい

<http://nposumamirai.blogspot.com/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

- 就労継続支援事業 B 型
- 就労移行支援事業
- 共同生活援助(グループホーム)
- 指定特定相談支援事業
- 地域活動支援センター
- こころの絵本プロジェクト(権利擁護と調査研究)
教育機関におけるワークショップ型授業の実施 市民向けのシンポジウムの開催
精神障がいに係る啓発冊子の作成
- キャッチボール交流会(スポーツ・文化活動)
身体障がい者野球チームの選手と当法人事業所利用者や地域の子供との交流を目的とした活動
- 家族、家族会支援(セルフヘルプ活動)
精神障がい者家族に対する個別の相談支援 「ひまわり家族会」に対する運営にかかる支援
- 民生委員、他領域 NPO との協働による、精神保健福祉にかかる地域課題解決(その他)
DV 被害女性やシングルマザーを支援する団体に対する精神保健福祉にかかる助言等
地域で孤立する精神障がい者への個別支援(制度外)

「生活介護事業所立ち上げの為に改修と備品の購入等」

実施内容

【助成額】100 万円

- 活動室、相談室のエアコンの設置(2 台)→利用者に快適に利用していただくため
- 調理プログラム用のIHコンロとキッチン台の購入とそれに伴う改修工事→健康維持・工場のための昼食サービス、QOL向上のための調理プログラムで使用するため
- 洗濯パンの設置工事→利用者の洗濯技能習得プログラム実施のため

得られた効果

精神障害者に特化した生活介護事業所が開設されたこと自体が、多くの関係者に大きなインパクトを与えたようです。実際に、精神科クリニック、訪問看護ステーション、障害者地域生活支援センターのスタッフ、長期ひきこもりの精神障害当事者の親からの問い合わせが開設以来、非常に多いです。このことは本来の目的ではあったのですが、社会資源になかなかつながらない孤立状態にある精神障害当事者やその家族が何らかの支援につながるきっかけという観点からは、予想以上の効果をあげていると感じています。必ずしも当事業所につながらなかったとしても、既存のサービスではサポートできずに、社会参加を半ばあきらめていた方(当事者、支援者、家族)が、改めて何か始めてみようと考えられるきっかけになっているだけでも、とても大きな役割があると実感しています。

問題点

特になし。



次の課題

就労継続支援事業所など就労系の事業所に通う精神障害者の高齢化が著しく、心身機能やQOLの維持・向上が事業所の大きな課題になっています。居宅介護や訪問介護の利用を促す等で対応してきましたが、地域に出て、仲間とともに社会活動に参加しながら、ケアサービスを受けることが望ましい利用者もたくさんおられます。また、精神科医療にかかりながらもそれ以外の社会参加の機会を持たない、いわゆる外来ニートと呼ばれる方も、まだまだたくさんおられます。そういった精神障害者が、無理せず安心して通える場が必要だと考え、事業所を新たに立ち上げることになりました。しかし、想像以上に地域ニーズは大きく、開所3か月にして、定員をオーバーしそうな状況です。前述のような精神障害のある方が安心して通える、専門職がしっかり配置された事業所、社会資源数が圧倒的に不足していることが大きな地域課題であると感じています（実際に代替となるような資源がないとの理由で、垂水区や灘区などからも利用希望の問い合わせがあります。）。



一般社団法人 Jobs

<https://jobs2017.work/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

総合支援法に基づき就労継続支援 B 型事業を行い下請け作業(梱包)の受注や自主生産(和紙制作、販売)を工賃としている。

「和紙づくりを通じパソコンで将来の選択肢を増やす」

実施内容

【助成額】4 万円

知的、精神障がいのある方が働くことを通じて居場所や目標をたてて、通所してもらっています。紙すき作業、軽作業を現在行っているが、紙すき作業の工程が現在作成と絵の具等で色づけして販売していたが、地域の保育園を運営している方より、紙すきを使った名刺を作成してほしいとの依頼があり、PCを助成していただき、今後PCでデザインすることで商品の幅を広げ、又、利用者にも広くPCを触り、今後の就労の選択肢として使用していきたいと考えています。具体的には、紙すき商品の背景等の色づけ、名刺等の作成、PCを使うことで新たな商品開発を実施しています。

得られた効果

紙すきの印刷を通じて、デザインをまなぶきっかけになったり、PC操作の習得につながり、きっかけは紙すきのデザインの印刷でしたが、利用者自身が他のPCの仕事に興味を持ったり、デザインに興味をもったりしている。そこから事務の仕事やデザインを作図する仕事につながれば良いと思います。近隣の地域企業や様々な職種に方々が名刺等の依頼をし、障がいのある方が担っていけば、社会的な価値もあがり、就労につながると考えています。

問題点

PCを扱える利用者が多くなかったことや業務として行うには、こちらの判断ややり方等が一律できていなかった。同じデザインするにしても利用者主体のやり方で行うと利用者がやり方につまづいた時に職員がそのソフトを熟知していなかった。双方のやり方でできる方法を決め、そのやり方を基準として、他の利用者にも指導していきたい。

次の課題

今回紙すき製品の印刷を行う為にPCの購入を助成していただきましたが、目的の操作から印刷に至るまで、手段が様々あり、その操作からのやり方やソフトを使うと職員がフォローできず、職員が学び習得するか、職員のやり方を行ってもらうのか統一できておらず、簡便な方法に統一し、他の利用者が業務を行っても分かりやすく、スムーズに行えるようにしたい。



特定非営利活動法人姫路こころの事業団

<http://himeji-kj.org/>

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 聴覚障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

1.就労継続支援A型

一般就労は困難だが、職業指導員の支援を受けることによって勤労に要する「体力・気力・忍耐力」等を体得し、知識・能力の向上の訓練を雇用契約を締結して実施している。

2.就労継続支援B型

雇用契約を締結して就労することが困難な利用者を対象として、就業訓練の機会を提供し、自分で選択したことに責任をもって取り組むことを目指す支援を実施している。

3.ソーシャルファーム虹の根っこ

ヨーロッパを中心に新しい福祉の在り方として注目されている「ソーシャルファーム」。日本では国の支援はないがその先駆けとして、障がい者と一般、ボランティアによる農業によるモデル事業を平成29年に開始した。

4.地域・教育機関との連携

灘中学校のトライやるウィークの受け入れ、城見が丘保育園・スーパーキッズ東交流館など幼児の農業体験や自然遊びの場を提供。また兵庫大学のロコモケアなど姫路大学の幼児教育課のボランティア生の受け入れなど、障がい者も一般も垣根のない社会づくりを目指した学びと協労の場づくりを展開している。

4.各種ワークショップの開催

専門のセラピストや臨床心理士などの協力を得ながらのセラピーや、染色家やアロマセラピストと共同で「草木染めスカーフ」「手作り石鹸」などの魅力ある仕事づくりと、授産品を開発している。

「ソーシャルファームの事業促進のための農業設備・機器導入費用」

実施内容

【助成額】57万円

①マルチチッパー

栗林剪定時に出た枝等をチッパーで粉砕し、畑の土壌改良に利用した。

②低温貯蔵庫

野菜の保存に利用した。導入が夏の最盛期を過ぎていたため、「さつまいも」「しょうが」「きくいも」など、低温になりすぎないように、秋、冬の長期保存に利用した。

③食器乾燥機

就労継続支援事業B型との6次産業化を検討し、さまざまな野菜類の施策を行った。乾燥時間の検討が難しく、何度か失敗・改良を重ねながら、商品化に数点こぎつけることができた。今年度商品化できたのは「干し芋」「きくいもチップス」「切干し大根」で、特に「干し芋」はB型の授産品としてもバザーなどでも好評だったため、来期は農園の収穫量を増やし、B型の授産品の仕事として定期的に組み込むこととなった。次年度も新たな商品を検討している。

得られた効果

社会的課題の一つとなっている農福連携事業で、B型の就労継続支援事業との連携を図ることができた。まだまだ課題は多いが、農産物を中心とした6次産業としての授産品制作に一つの光明を見いだすことができたのではないかと思う。

問題点

特になし。

次の課題

農産物の収穫がまだ安定しておらず、収穫時期や不作など、B型の定期的な授産品清算作業に組み込むにはまだ解決しなければならない事案がある。

農地の土壌改良やボランティアの増員など、安定した収穫と商品づくりのための流れを構築したい。



特定非営利活動法人出愛いの里福祉会

<https://deainosato.jp/>

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

■ダイレクトメール加工作業 ■プラスチックダンボール洗浄作業 ■クロネコDM便配達

■各種チラシポスティング

■就労支援

各種作業を通じて、社会人としての基本的モラル(休まない、身なりを整える、挨拶が出来る等)が身についた方には、ハローワーク、職業自立センター等と連携し、企業見学、実習を踏まえ、就労支援を行っています。

■広報及び地域活動

地域の一員としての役割を果たし、地域の人たちに障害のある人たちと作業所への理解を頂けるよう努めています。

計算、習字等日常生活に必要な基礎能力の習得。公共交通機関が自由に利用出来るように支援しています。

■余暇活動

スポーツ、音楽療法、書道等

■各種行事

ふれあいバーベキュー、日帰りバス旅行、福祉コンサート、新年会等

「工賃向上のための紙枚数計数機購入」

実施内容

【助成額】100万円

当事業所では、ダイレクトメールの加工作業を中心とし、日々作業を行っています。ダイレクトメールの加工作業は資材の数量確認から始まります。資材によっては納品予定数と納品実数に誤差がある場合も多く、全ての資材を計数のうえ作業を開始する必要があるためです。この計数作業について、重さを量るはかりを使用し、資材1部あたりの重さから計数しています。計数については職員が行っていますが、資材の種類によっては誤差が出る事も多く、手作業での計数には限界がきています。また、受注先が大阪にあり資材の納品、引き取りを終えて事業所へ戻ってくると17時を過ぎるため、準備の時間が十分に確保出来ず、案件の引き合いはあるものの、これ以上の受注は難しいのが現状です。紙枚数計数機を導入し、資材の計数作業を効率化することにより、更なる受注の増加を進めていきたい考えです。

DM作業では、①資材の丁合(セットアップ)、②封入、③検品、④封かん、⑤ラベル貼り、⑥区分けという6つの工程に分解し、利用者への作業提供をしています。①、②工程についてのミス(資材の入れ忘れ、入れすぎ)を防ぐ為、③の検品工程を設けています。この工程では、はかりを使用し、1通ずつ重量検品を実施しています。微妙な重さの違いを素早く判断する必要がある為、担当できる利用者が限られており作業提供のネックになっているのが現状です。しかしながら、紙枚数計数機を導入することにより、封入資材を種類ごとに同数準備することが可能になり、①丁合工程の段階でミス(資材の入れ忘れ、入れすぎ)を防げるようになります。③の検品工程を省略出来るようになるため作業スピードの向上、作業可能案件の増加が可能になります。

得られた効果

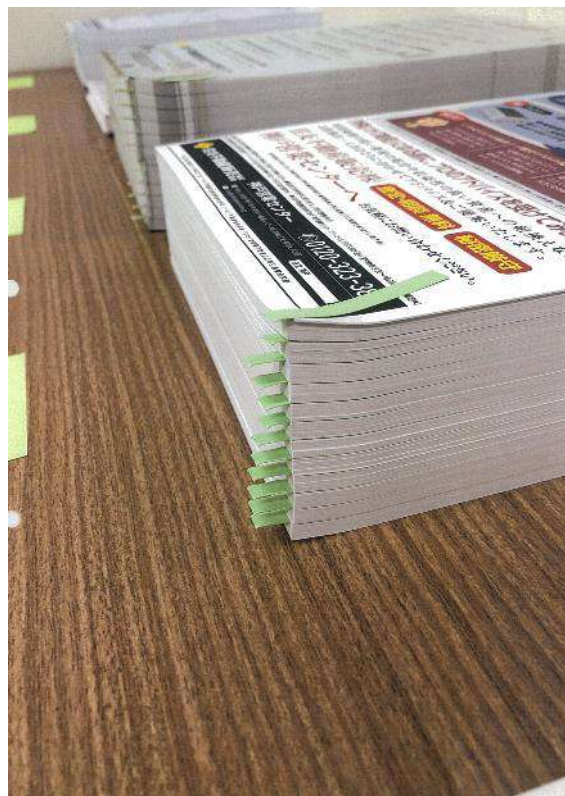
紙枚数計数機を導入することにより、封入資材を種類ごとに同数準備することが可能になり、丁合工程(セットアップ)の段階でミス(資材の入れ忘れ、入れすぎ)を防ぎ、検品工程を省略することによりスピードアップが可能になりました。さらに、資材を同数、少量ずつ準備し作業することにより、作業の区切りが増え、集中力が持続することによりミスの減少傾向にあります。

問題点

特になし。

次の課題

作業スピードは上がってきているため、十分な仕事量の安定的な確保、取引先の拡大等が課題と
考えます。



特定非営利活動法人ほのぼの

<http://honobono1999.com/>

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 就労継続支援B型事業
- 地域生活支援事業(明石市タイムケア事業)
- 任意団体の当時から継続発行する情報収集と発信を目的とする「ニュースほのぼの」の発行(障害者定期刊行物協会に加盟)
- 「累犯障がい者」受け入れと生活への支援
- 美術鑑賞、市内で開催される障がい者芸術公募展への応募

「障がい者情報の収集・発信用備品購入」

実施内容

【助成額】76万円

11年前から使用する軽印刷機はこの間トラブル続きで相次いで修理してきたが、経年劣化で更新が必要と診断されたので、新たな機械を導入した。

得られた効果

特になし。

問題点

特になし。

次の課題



機器購入後、間もないためまだ波及効果等は見えないが、市民活動団体等と連携しながら有効活用を心がけたい。

社会福祉法人三田谷治療教育院

<http://sandaya.or.jp/>

【所在地】 芦屋市

【対象者】 肢体障がい者、視覚障がい者、知的障がい者、
精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- 障害児等療育支援事業
- ひょうご発達障がい者支援センタークローバー芦屋ランチ
- 神戸市発達障害者支援センター業務委託事業
- 阪神南障がい者就業・生活支援センター
- 障がい者一般相談支援事業・指定特定相談支援事業
- 障害者等相談支援コーディネート事業(阪神南圏域)
- 芦屋市生活困窮者就労準備支援事業
- 芦屋市障害者基幹相談支援センター
- Sun3ルーム(有料部門)
- 和太鼓教室(芦屋市民のみ)

「病院・施設から住まいを地域移行される方の支援のための車両購入」

実施内容

【助成額】100万円

地域で暮らす利用者や子どもたちの特性上、公共の乗り物に乗車できにくいときに暮らしを支えるための送迎で支援します。利用者に乗せる理由は多岐にわたります。治療教育室は阪神南圏域(芦屋市、西宮市、尼崎市)にまたがる広域の支援をしているため、支援する利用者数が多数であり、行動範囲も広く送迎をします。当法人は地域でくらす障がい者が、地域の主体者として自立した生活と緊急時対応を含めた支援ができるような社会資源として担っていきます。また、病院や施設から地域へ住まいを移られる方の細やかな対応をしています。入院している病院は山間部にすることが多く、車両による移動をすることでできるだけ柔軟に対応しています。具体的には入院・入所先の病院・施設から退院に向けての話し合いをする際の移動、一時外泊をするにあたってご本人と荷物をご自宅にお送りすること、地域で体験的に泊りをする際に、送迎と必要な荷物を一緒に選んで運ぶ支援等ができました。平成30年度末までに5名地域での生活に移行され、4月にもお一人新しい生活をはじめられます。

得られた効果

木口財団の助成事業の幅の広さを知ることができました。新しい車両を管理する中で、他の車両より丁寧に運転したり、管理しないといけない意識が芽生えました。

問題点

特になし。

次の課題

病院や施設からの地域へ住む人に対して、引越しや引っ越し先での福祉サービスや支援体制の調整など、どうしても訪問頻度が多くなり、時間がかかってしまいます。グループホームや賃貸への体験宿泊に関しても、現在の住まいやご実家等からの荷物の搬入があり、公共交通機関での対応は難しいと考えます。



特定非営利活動法人はた織り工房おりひめ

【所在地】 兵庫県加古川市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型指定福祉サービス事業。

現在6名の利用者様が自由な発想で織ったさをり織りの反物を職員がかばんや小物に仕立て、カフェや地域のイベントで販売しています。

「さをり織り機の購入」

実施内容

【助成額】27万円

助成金で購入したさをり織り機を施設・公民館などに持ち込み、地域住民・施設入居者・デイサービス利用者にさをり織りの体験をしていただく。おりひめの障がいを持つ利用者様と職員が体験者の織りをサポートする。麻痺などの障がいがあり手足が不自由な高齢者の皆様に対しては、手となり足となり織りのサポートを行う。また、認知症の体験者に対しては一段ごとに声かけをしている。織り上がった作品は、コースターやストールに仕上げ、後日お届けしている。



得られた効果

本来の目的は障がい者の社会参画と地域交流であったが、さをり織りを体験した多くの皆様は、仕立ててお渡しした作品を見てとても嬉しそうにされ「父、母、妻、孫へのプレゼントにする。」と言われる人が多かった。さをり織りを体験し、織る工程を帰宅後、家族と会話し、家族からも「できないと思っていたことができてとても驚き、嬉しかった。」と言われ体験者の家族間にも良い結果を残せたと思う。

問題点

余裕をもってさをり織りを織る時間を設定していたが、体験者によっては織るスピードや移動時間が想像以上に長くなってしまい、入れ替えで織る2回目、3回目の体験者の皆様の時間が短くなってしまったこと。



次の課題

さをり織り体験をリハビリやレクリエーションの一環として取り入れてくれる施設の開拓や地域の公民館行事への参加、継続してさをり織り体験を実施していただける個人や施設に対して営業活動や情報拡散に力を入れたい。宣伝活動し、より多くの地域住民へ私達の活動を知ってもらうことが課題である。

特定非営利活動法人ボア・ヴィーブ

<https://voixvive.com/>

【所在地】 兵庫県宝塚市

【対象者】 肢体障がい者

【日常の活動】

(1) 障害者総合支援法に基づく事業として

・身体介護 ・重度訪問介護 ・短期入所

(2) 地域活動支援事業として

・移動支援 ・日中一時支援

「入浴要介護リフトの購入・設置」

実施内容

【助成額】58万円

浴室に入浴リフトを設置しました。

毎日5名ほどのご利用者さんが入浴しますが、抱える介護でスタッフの腰痛が悪化したため、リフトを設置していただき、腰痛予防と介護負担の軽減につなげました。

得られた効果

今回初めてリフトを設置しました。今までの介助はスタッフの負担が多い介助をしていましたが、リフトを設置して使用することで介護負担の軽減につながり、無理のない介護をすることができました。

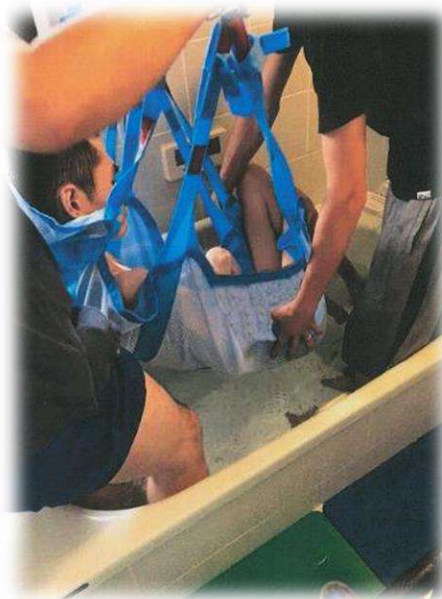
機械の導入は操作が困難では？と今までしてきませんでした。今回、負担が軽減されとても介助がしやすくなったため、今後も機会を導入して、ご利用者さん、スタッフどちらも大切にできる介護を目指していきたいと思いました。

問題点

特になし。

次の課題

リフトにスリングシートをつなげる際に時間がかかり、ご利用者さんが浴槽に入るまでに待っていただく時間があるため、スタッフで練習をし、リフトとスリングシートを素早くつけられるようにしたいと思います。



特定非営利活動法人ざくろ

<https://www.npozakuro.org/>

【所在地】 兵庫県三木市

【対象者】 肢体障がい者、視覚障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

【小規模作業所の運営事業】

- ・プラスチックのバーにシールを貼り、工事現場用の安全ポールを作る作業
- ・畑での野菜作り
- ・メガソーラーの敷地の草刈作業

【主に障害者を対象としたイベント開催事業】

- ・24時間テレビの募金活動(会場を借りて、地域の方にもイベントに参加して頂き、ダンスや楽器の演奏、カラオケを歌ったり交流を深めています)
- ・クリスマス会(近所の老人ホームの方とゲームをしたり、ケーキを食べたりして交流を深めています)

【交流スペース運営など地域住民との交流及び支援事業】

- ・作った野菜や小物を販売しています・毎朝近隣の掃除をしています・バザー会場での野菜販売をしています

【余暇支援】

- ・お花見(お弁当を持って出かける)・日帰りバス旅行(USJ、姫路城、吉本新喜劇等)
- ・キャンプ(コテージなどで宿泊)・ぶどう狩り・お祭りの参加(花火大会、秋祭り、鬼追い祭り)
- ・お風呂屋さんでの入浴・レストラン等での食事会等

【権利擁護】

- ・権利侵害や財産管理に関する不安、困りごとなどについて、社会福祉士などの経験豊かな相談員がご相談に応じます
- ・福祉サービスの利用手続きや日常の金銭管理、成年後見制度の活用のお手伝いを行います・福祉サービスについて不満があるとき、苦情解決のための支援をいたします

【スポーツ・文化活動】

- ・各スポーツ大会への参加・毎日の歩行訓練、卓球、ミニサッカー、ボーリング
- ・絵、作品の出展

「グループホームステラ増設に伴う物品購入」

実施内容

【助成額】90万円

新グループホームでの使用物品の購入

- ・電子レンジ(パナソニック NE-E22A1-W) 1台
- ・ドラム式洗濯機(日立 BD-SGBLW) 2台
- ・LEDシーリングライト(NEC HLDZB0892) 10台
- ・冷蔵庫(日立 R-F51M2W) 1台
- ・FAX電話機(パナソニック KW-PZ200DLW) 1台
- ・ベッド(ベルタ 3WH チェスト 40) 10台
- ・ベッドマットレス(ポルタ 2) 10台
- ・布団セット(NV&RE_S) 10個



得られた効果

見学の方が増えた。特別支援学校の方がマイクロバスで来所された。新聞にて紹介された為、近所の方が見学に来られた。1泊～7泊に来られる方が増えた。就職されている方の交通便が良く大変喜んでます。

■新型の家電製品は使いやすく今まで自分で洗濯ができなかった利用者さんも使い方をおぼえて出来るようになりました。

■新しい寝具でみなさん快適にお休みされています。

■グループホームの新設は、三木市外の特別支援学校の保護者さんが多数マイクロバスで来られたり、市外からかなりの見学がありました。

問題点

特になし。



次の課題

■病院から退院されてグループホームに入られる方などは、ご自身で家事をすることが難しい方が多いので、家電一つにしても簡単に操作できるものを選ぶ必要があると思いました。

■三木市外(特に小野から北)はグループホームが少ないようで、見学の保護者様や就労系の施設の方から、そちらの地域でも開設してほしいと要望されました。高齢化にともない、若い方の受け入れ先がないなど、介護への移行や若年層の受け入れ先を増やすなど、問題は山積みだと思いました。

特定非営利活動法人川西市手をつなぐ育成会

【所在地】 兵庫県川西市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

- ・短期入所(ショートステイ) ・共同生活援助(グループホーム)
- ・地域生活支援(グループホーム、ショートステイ、生活介護、計画相談) ・体操教室

「地域住民に知的障がいを知ってもらう啓発事業」

実施内容

【助成額】31万円

頂いた助成金を使用し、パソコン、プリンター、プロジェクターを購入させて頂きました。

さっそく平成30年10月3日(水)に「元気なうちに準備する終活」と言う障がいのある人への後見支援についての講演会を開催しました。

障がいのあるお子さんを持つ親が一番心配している「親亡き後」について司法書士の方のお話を聞き、事前の備えの大切さやエンディングノートの活用の仕方を勉強させて頂きました。

少し難しいお話ではありましたが、随時図で説明して頂いたおかげで難しい問題もイメージしやすくなり、参加して下さった方々も神妙な面持ちで講演に聞き入っていました。

今後もITの力を借りながら、会員だけでなく、地域に住む全ての方々に障がい者の現在とこれからの発信し、共に生きてゆくために何が必要か模索しつつ、ノーマライゼーションを目指して尽力していきたいと思えます。

得られた効果

頂いた助成金で購入したパソコン、プリンター、プロジェクターを使用し、まずは今巷でも話題の「終活」についての講演会を、会員だけでなく地域のみなさんにも告知し開催しましたが、実際の参加者はほとんどが会員で、まだまだ当法人の認知度の低さと障がい者と一般の方々との距離を感じました。ですが、今回会場に使用したパンフレットかわにしは川西市の多くの民間団体が利用している施設であるため、参加はしなくとも「川西市にはこういう団体があるのだな、こういう講演会をしているのだな」と知って頂けるきっかけにはなったのではないかと思います。

問題点

特になし。

次の課題

講演会、勉強会で何より大切なのは「わかりやすさ」であると痛感しました。そして、その前にまず「知ってもらう」ことの重要性も実感しました。

広くみなさんを知って頂きたい情報及び一緒に考えてもらいたい問題等々、それらをより身近に受け止めて頂けるよう会員のみならず、一般のみなさんへの持続的な働きかけが必要です。たとえ今は反応が薄くとも継続することで認知が深まり、それがいつかは障がい者理解に繋がることを信じてこれからも地道な活動を続けて行きたいと思えます。

幸い川西市には今回会場をお借りしたパレットかわにしのように、場を提供して下さる施設がいくつかありますので、それら施設やスタッフさんとも協力して、これからもその時々で興味深い課題について勉強できる機会を作って行きたいと思えます。



株式会社 TunagDesign 就労継続支援 B 型事業所シゴトバ

<https://www.shigotoba.work/>

【所在地】 兵庫県篠山市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援 B 型事業所

「自前の木工加工設備を整備」

実施内容

【助成額】59 万円

物品購入 ・自動カンナ・手押しカンナ・ベルトディスクサンダー・木工用集じん機・卓上ボール盤・オリジナル焼印・ボール・マキタテーブルソー・マキタテーブルソースタンド・バンドソー・ボディレボクランプ・KDS パイプクランプ・クランプ用パイプ・レーザー加工機 FAB00L Lasermini・レーザー加工機拡張フレーム・自動カンナ用替刃・手押しカンナ用替刃・ベルトディスクサンダー用エンドレスベルト

得られた効果

全国的にも有名なクラフトフェスティバルにも出店でき、利用者も買ってもらえたことの喜びは大きかったようである。また、制作したものは、障害を持つ人が作ったとは思えないなどの声も聞かれたため、利用者にとっては今後の糧になる良い機会を与えられたと感じる。そのような機会を通じて、より多くの人に当事業所の存在や製品を知ってもらえたことも大きな意義があったと感じる。

問題点

当初施設外就労は週2日程度だったが、企業側の希望(繁忙期)により昨年後半より週4日となった。そのため、作品製作に携わることができる利用者が限られることになり、製作時間も大幅に減少したことから、販売する機会もなくなった。よって、売り上げが予想を下回ることとなった。

次の課題

- ・機器を使用することでのケガをどのように予防するか
- ・販売経路の開拓
- ・施設外就労と製作時間確保の時間



特定非営利活動法人ネクスト

<http://next-mirai.org/>

【所在地】 兵庫県多可郡

【対象者】 肢体障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、
精神障がい者

【日常の活動】

障がい者就労支援(A型・B型・就労移行支援)

○兵庫、大阪、奈良など7か所のクリーンセンターから廃棄布団回収。 ○廃棄布団の洗浄・滅菌・リサイクル。

○リサイクルわたを利用した布団・座布団の製造。 ○製品の梱包、出荷。

○地域の一般就労事業所への施設外実習。

○労働局からの補助をいただき、利用者の方のフォークリフト資格取得支援実施。

資格取得支援事業

○5名の方の運転免許(普通車2名・自動二輪1名・原付2名)資格取得支援として、教習所・運転免許試験センターなどへの無料での送迎支援。

資源ごみ提供活動

○近隣小中学校、特別支援学校へ月一回程度、アルミ缶等の資源ごみ提供を行っています。

「安全品質の「ものづくり」を目指すための「検針機」の増備事業」

実施内容

【助成額】100万円

最新式の検針機を「ネクスト八千代工場」に増備しました。事業の主たる目的はネクストで製造する製品の安全性・製造効率の向上ですが、事業を拡大する事で「障がい者福祉」に貢献するとともに、廃棄布団のリサイクル量を高める事で「環境保全」にも寄与したいと考えています。

得られた効果

今回の事業の本ら期の目的は「最新式の検針機を増備することで安全性・生産効率を高める」ということであつたと考えています。その効果は本申請事業により得られたと考えています。

ネクストの主な事業は廃棄布団をリサイクルして座布団など新たな寝具を製造することです。私たちの活動の一時的な目的は障がい者就労ではありますが、二次的には不要となつた布団の中わたをリサイクルすることでごみの減量化を図り、焼却処分量を減らすことでCO2排出量削減にも寄与していると考えています。そういった意味では私たちの活動が継続していくことは、「福祉」だけでなく「環境」にも役立つという波及効果が得られていると考えています。

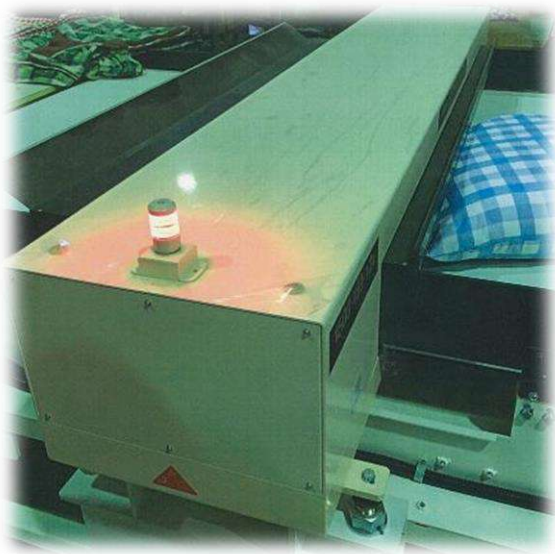
また近年では障がい者就労でも革新的な事業が見られるようになりましたが、障がい者就労の現場を知らない方からは正しく評価していただけないことが多々あります。幸いにもネクストは地元寝具販売会社から受注をいただくことで、全国の手販売店へ納品する製品を出荷していますが、ネクストに製造を委託して下さる方が最も重視される所は「安全性・信頼」であると感じています。たとえ福祉サービス事業所であっても、一般の事業所の安全品質に劣らない製品を作らなければ、販路の拡大は困難であると感じています。このたび木口財団よりご支援いただき、「最新式の検針機」を増備できたことで、安全性に関してこれまで以上に自信を持って事業に取り組む事が可能になりました。今後は福祉サービス事業所でも一般の事業所に劣らない「安全性という付加価値」を持った製品を製造することで、障がい者就労の可能性を広げるといふ社会的価値の向上に取り組みたいと考えています。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



社会福祉法人ぬくもり

<http://www.npo-nukumori.com/>

【所在地】 奈良県天理市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

- 障害福祉サービス事業 ■地域生活支援事業 ■相談支援事業 ■居宅介護事業
- 児童福祉サービス(重症心身障がい児放課後等デイサービス等) ■障がい児相談支援事業
- 訪問介護事業 ■介護予防訪問介護事業 ■外出支援事業 ■旅行介助ボランティア派遣事業
- 福祉有償運送サービス事業 ■移動支援事業

「『重症児放課後等デイサービス』を開始するための福祉車両購入」

実施内容

【助成額】100万円

1. 重症児放課後等デイサービス

- (1) 対象者:重症児
- (2) 回数:週5回
- (3) 定員:1日5名 ※1週間で延べ25名、1月で延べ100名(5名×20日)の重症児を受け入れできる。

2. 重症児とその家族を対象とした外出支援

- (1) 対象者:重症児とその家族
- (2) 回数:福祉車両の空き時間を利用し、重症児とその家族の希望に応じて随時行う。

得られた効果

- ・今まで子どもの預け先がなかった重症児の家族が、当法人と関わるきっかけとなり、悩み等を相談できるようになった。
- ・重症児とその家族の新たな行き場所ができた(自宅と施設以外にも外出できた)。
- ・重症児及びその家族が、この奈良県天理市で豊かに暮らしている。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。



株式会社まつ井

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 肢体障がい者、視覚障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型でリラクゼーションや軽作業を提供しています。

「利用者の方を送迎するための車両を購入」

実施内容

【助成額】96万円

視覚障害をお持ちの方(国家資格保持者)を雇用したい希望がありましたが、通勤出来る範囲の地区のアパートが高く、人が集まらずでしたが、車両を購入することが出来、比較的安く入れる賃借のアパートも通勤(送迎込み)出来るようになり、利用者の方も経済的負担が少なく、一人暮らしをしながら就労出来る環境を整えることが出来ました。これにより、以前よりも多くの利用者の方が来てくださり、施術のお店も多くのお客様に来ていただいています。当初の目標でありました多くの方に視覚障害を持たれた方の質の良いマッサージを体感していただける機会の提供に成功しています。とてもお客様も満足されておられます。

得られた効果

車両の購入により、一人暮らしやJRへの送迎が可能になり、働きたくても働けない方が多くおられたことがわかりました。岡山県以外からの雇用も可能かと思えます。

問題点

特になし。

次の課題

視覚障害の方は、少なくなってきたが、発達障害や知的障害等の重複が多いとのが近隣の盲学校をまわってわかりました。そちらの支援の方法も確立していきます。

社会福祉法人めやす箱

<http://www.meyasubako.jp/>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業において、ご利用者一人一人と雇用契約を締結し就労支援を行っています。業務内容としては、清掃業務・印刷業務を主軸に取り組んでいます。

具体的な業務内容について

清掃業務

高齢者施設、高齢者デイサービス、宿泊施設、ビル・マンションアパート等の共用部、退去後のアパート等の清掃、地域の公園清掃・ハウスメーカーの分譲地の整備、市内幼稚園内の樹木薬剤散布等

印刷業務

名刺・封筒・年賀状・法人広報誌の印刷および検品

「清掃業務の幅を広げるために、ポリッシャー機材一式の購入」

実施内容

【助成額】23万円

ポリッシャーを活用しての床洗浄の業務を実施させて頂いています。

■床洗浄の業務の流れ

フロア全体にほこりなどがいないか確認し、ある場合は掃除機で吸い取る。フロア全体にモップで洗剤を塗る。ポリッシャーを使用し、フロア全体の汚れを除去していく。隅の部分はポリッシャーが届かない為、別のブラシや手作業で汚れを落とす。水切りで汚水を集め、バキュームを使用し汚水を吸い取る。水モップで全体を拭き、乾モップでふく。フロア全体が乾いたらワックスを塗り仕上げる。

■ハウスクリーニング

一軒家では、リビングや広い部屋等はポリッシャーを活用し汚れを除去する。アパートは、フロアの汚れ除去は手作業で行う事もある。今までも清掃業務を行ってありますが、床洗浄を行わないハウスクリーニングや除草作業等を中心に組み込んで参りました。今後は、ポリッシャーを活用し施設の床洗浄等の業務を取り入れる事ができ、A型で働いて頂いている利用者の方々に、今以上に社会経験を積んで頂くことができると考えております。

得られた効果

ハウスクリーニング、施設整備等において、スキル・経験などから全利用者が実践できるわけではないが、実施した利用者以外の者も自分も実施できるように頑張りたいとモチベーションの向上につながり、今後の清掃におけるスキルアップが期待できる。これまでも除草等においては、障害の有無に関係なく請負委託業者から、今までの業者よりも仕上がりが良いと言葉を頂くこともあり、今後、備品を活用し施設整備等でも同様のスキルを身に付け満足度を追求していく。

問題点

特になし。

次の課題

仕事先を確保する為には、一人の力量では限界があると感じ、今後請負先を広げていくうえで、ネットワークの構築が必要であると感じた。また、1ユニットの人数を少なくし、複数のユニットを組めるように利用者・職員共にスキルアップが必要であると感じた。



特定非営利活動法人いちご一会

<https://ichigonoie.cloud-line.com/>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、難病患者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所

「送迎、イベント、農耕の機材運搬、利用者の移動手段としての車両」

実施内容

【助成額】96万円

車両購入：トヨタ ボクシー 購入日：平成30年9月3日

■西日本豪雨に遭い、個人所有（事業に使用していた）2台の車も水没、先の見通しが つかず茫然としていた矢先に車両助成の通知を受け、神様からのプレゼントだと感じ、事業再開の決心をいたしました。

得られた効果

- バラバラになった利用者さん達を避難所から送迎でき、ご本人、親御さんから心の負担の軽減になったと感謝されました。
- 畑や、イベントに荷物と人を同時に移動できるので、車の台数が減り職員の負担が軽減された。
- 今まで送迎車がなく、営業的にも不利の立場でしたが、利用者さんその家族のニーズに沿って送迎が可能に成るので、利用者の増加につながる。
- 車にステッカーを付けているので、走る宣伝カーでもある。

問題点

特になし。

次の課題

現在、農耕、イベント出店にボクシーを使っているが、乗用なので荷物が意外と乗らない。室内の汚れが気になる。軽トラが1台あると、長尺の物等の荷物が楽に乗せられる。遠慮なく仕事に使える。



社会福祉法人三穂の園

<http://mihonosono-sumikura.jp/>

【所在地】 広島県福山市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

知的障害、身体障害、発達障害（自閉スペクトラム症等）の障害及び難病等の就学前の児童が日常生活スキルの獲得や認知・社会性などを学び、また、集団活動に参加できるよう支援を行う事業を営む通園施設である。

利用児は、幼稚園のように毎日施設に通園し、生活に必要なスキルを高めていく。

「児童発達支援事業の新規立上げにかかわる教材・運器具購入費」

実施内容

【助成額】92万円

- 運動器具は2階遊戯室に設置している。子どもの安全と導線を配慮しながら各器具を有効的に使えるよう配置している。職員が設置活動及び自由遊びで遊戯室を使用する際に子ども達に器具の適切な扱い方や身体の動かし方、手指の操作方法における機能的な指導、順番を待ったり、貸し借りができるソーシャル・スキルの指導を実施している。
- 手指操作・力加減・目と手の協応動作が苦手な子どもが多く、ままごとセットの教材を活動に取り入れ、左右の手の分化した動かし方、野菜、くだものなどの種類別のマッチングや弁別などを遊びながら機能や理解力を高める指導をするために使用している。

得られた効果

- 運動器具が以前よりも充実したことにより、子ども達の遊戯室で遊びたいと云う意欲が一層高まり、笑顔や笑い声も増えた。
- 身体機能の不器用な子どもや特定の器具、遊具のみにこだわり遊びを深められない子どもがいるため、遊びの選択肢が増え遊びやすい環境設定ができた。
- 大人に対して器具の使い方や協力を得ないといけない場面が増えたため、助けを求める行動や信頼関係を築ける機会も増した。
- 障害受容がまだ難しい保護者や近隣のコミュニティーセンター・行政関係者の方が施設見学に来園される折に、子どもたちの楽しそうな遊びや表情を見ることにより、特別支援を受けるハードル（気持ちの上で）が下がり、入所を前向きに考えたり、地域で支援の必要な子や家族に特別支援を受ける有効性についてより良い印象を持ってもらえやすくなった。

問題点

特になし。

次の課題

特になし。

シャイニークルー株式会社

【所在地】 山口県岩国市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

2018年4月より、指定障害福祉サービス事業（生活介護）を開始、常に介護を必要とする方に対して、主に昼間において、入浴・排せつ・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。

生活介護事業の利用者をはじめ共通の悩みや問題を抱える人やその家族が、自主的に行う活動を支援します。仲間と出会い、気持・情報などをわかちあうことで悩みをひとりで抱えている状態から抜け出すことを互いに支え合う活動を展開します。仲間同士で、気持ちをわかちあうミーティングを主としたグループ活動や、自分たちの問題を多くの人に理解してもらうために、講演会・資料発行を通して社会への啓発活動などを行います。

「自閉症、知的障害者への物理的構造支援（ワークシステム構築）」

実施内容

【助成額】73万円

□スケジュール等の視覚支援

自閉症、知的障害の方の障害特性でもある「見通しの持ちにくさ」「終わりが理解できないことによる不安」を解消するために、一日の流れ、活動、作業の「何をするのか」「どのような手順ですか」「どうなったら終わりになるのか」等の情報を視覚的に伝える為の写真カード、スケジュール等を作成。

①デジカメで写真を撮る

②写真のデータを購入したパソコンに入れてカード、スケジュール、手順書等作成

③カード、スケジュール、手順書等をラミネート

④一日の流れスケジュール（活動内容）、本日の利用者の写真カード、本日の掃除場所:ホワイトボードに掲示

□物理的構造化した分かりやすい作業ブース

①「何をやるのか」「どのくらいの量をするのか」「いつ終わるのか」「順番は上から下」「右から左」「終了」が分かりやすく、また、集中できるよう個別空間となる構造化ワークシステム用オリジナルデスクを作業部屋へ5台設置

②転倒防止機能が付いたイスも5台設置

③作業に使う部品を分かりやすくするためのキャビネットを設置し、キャビネットの引き出しに、部品の写真カードを張り付け

④作業部屋2室の床に訓練マットを敷いて、色で構造化

・黄色の部屋が●●さん、●●さん、●●さん、●●さん、が作業する部屋

・青色の部屋が●●さん、●●さん、●●さん、●●さん、が作業する部屋

⑤クールダウンコーナー2ヶ所に衝撃吸収マットを敷いて、色で構造化

・作業する→クールダウンする→作業する→クールダウンする の繰り返しが必要な対象者のコーナー

得られた効果

事業所内を物理的構造化して、対象者の障害のある方たちが不安なく活動作業されることに対して、その親御さん、ご家族の方々の安心にも繋がった。また、対象者の障害のある人たちの就労支援移行にも繋がるのではという期待感が持てた。

問題点

特になし。

次の課題

今回は、自閉症(発達障害)、知的障害の方を対象にした事業で構造化したが、同事業所には肢体障害の方も数名おられ、その方には対象とならなかったのと、今回の支援方法の共通点がなかった所から、今後は肢体障害の方にも安心して過ごせる空間を作りたいと思った。



特定非営利活動法人花の花

<http://hananohana.main.jp/>

【所在地】 福岡県福岡市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

オーガニックレストラン

hana no hana【就労継続支援 A 型】

精神障害者と知的障害者を中心に給食とお弁当製造に従事し、彼らの自立をサポートしている。

具体的には、食材の下準備、味付け、盛り付けなどを担当している。

ほっとステーションおひより【就労継続支援 B 型】

農園部門では、創設以来14年間無農薬・無化学肥料での栽培を続けている。

「無農薬・無化学肥料野菜の6次産業化事業に伴う設備購入」

実施内容

【助成額】95万円

私たちは、事業所が始まった14年前から、無農薬にこだわり栽培を行ってきました。慣行栽培により作られた野菜に比べ、付加価値の高い商品を作り出すことができたと感じております。

しかし、無農薬栽培であるがゆえに、市場に流通させる際の商品企画に適合できなかつたり、必要なロット数の生産ができなかつたりと、廃棄が多いという課題も抱えてきました。今回の助成により、ロスが生じるという課題の解決に取り組んでおります。

○事業名 「無農薬・無化学肥料野菜の6次産業化事業」(粉末)

○使用機材 ・野菜乾燥機(既存)・電解水生成装置(平成30年度地域福祉振興助成)

・粉砕機(平成30年度地域福祉振興助成)・真空包装機(平成30年度地域福祉振興助成)

○実施内容

無農薬であり、有機肥料を使うという点から、加工する際野菜につく雑菌(大腸菌群など)の繁殖を防ぐ必要があります。電解水生成装置により食品の除菌を行い、衛生面の課題をクリアします。殺菌を行った食品を乾燥機(既存)にかけ乾燥させます。乾燥させた食品をミル(粉砕機)で粉状に加工します。

最後に酸化を抑える為に真空包装機にかけ、商品化を行います。

○販路と活用

無農薬野菜の粉末は、菓子製造・健康食品加工、レストラン等、様々な場面で使用する機会があり、販路の構築が可能であると捉えています。まずは、当社菓子製造部門において、新商品の開発を行い、売上増加を目指します。

得られた効果

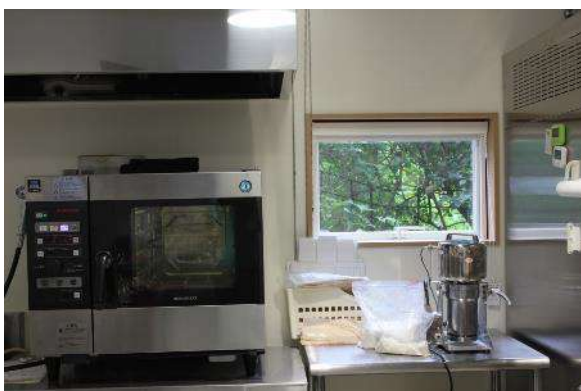
工賃向上を達成するために、今回の助成を頂きました。少しずつ商品が完成しておりますが、主力商品を生み出すまでには至っていません。農業部門は今までの多品種多品目生産から、6次産業化に向けて育てる野菜を精査することで、野菜の安定供給を行う必要があります。また、製造部門は製造のライン化が求められます。

問題点

野菜を乾燥させ、粉末にする際に、見た目ではきれいに乾燥しているようであっても、水分が残っていることがあり、粉にする際に不良品が出るがありました。

次の課題

今回の助成を頂くまでは、販売にはいたらなかった野菜は全て破棄していました。利用者さん達は、暑い日も寒い日も頑張って作業した成果が破棄されたことで、精神的に辛い思いをされている方が多くいらっしゃいました。助成事業を開始してからは、育てた野菜のほとんどが何らかの製品になって販売できたことに強い喜びを感じられています。その効果があり、精神の利用者さんの通所日数が増え、工賃アップにも繋がっています。新商品開発に当たっては、利用者さんの絵をパッケージにするなどして、より達成感を生むことができました。更に、助成をいただき、農園部門で育てた野菜が製造の既存商品に使われたり、新商品を生み出したりできるようになりました。製造部門と農園部門が連携することで、連帯感が増し意欲の向上に繋がっています。そのような、商品が社会に流通し、お客様の喜びも生み出せていることに社会的な価値を感じています。



特定非営利活動法人沖縄県脊髄損傷者協会

<https://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

【所在地】 沖縄県浦添市

【対象者】 肢体障がい者、内部障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

1. 就労移行支援事業
2. 就労継続支援A型事業
3. ピアサポート事業
4. 福祉体験プログラム推進事業
5. バリアフリー推進事業
6. 車いすスポーツ普及促進事業
7. 交流事業
8. 改造装置無料点検活動事業

「意思伝達装置等のお試し機器購入」

実施内容

【助成額】56万円

【内容】

障がい者や難病患者等がIT等支援機器(以下「機器」という)を活用し機器整備を図るために、整備希望者に多様なIT支援機器を“見て、触れて、使ってみて”等の体験をすることで、その方の障がい特性にマッチした機器整備につなげるための体験用貸出機器を整備し貸出した。

【対象者】

- (1) 障がい者や難病等でIT支援機器等を必要とする者
- (2) 障がい者や難病等を支援する関係機関団体

得られた効果

意思伝達装置を利用することで「社会参加促進」につながってほしいという思いでしたが、「社会参加→働く可能性」の視点による活用例が広がっている。

問題点

購入整備した情報支援機器がその後製造中止となり、紹介することが難しくなりました。
※パナソニック製(意思伝達装置:レッツチャット)

次の課題

日進月歩で開発される、新たなIT支援機器をどのように整備し、体験機会を創出したらよいか財源確保したらよいか悩んでいます。今後は、情報支援機器メーカー等との連携を図りつつ体験用機器を提供できるよう交渉したい。



介助犬ファーストと未来をつなぐ会

【所在地】 北海道札幌市

【対象者】 肢体障がい者、内部障がい者、知的障がい者、
発達障がい者、その他

【日常の活動】

(1) 介助犬・補助犬に関する普及・啓発事業

① 介助犬に関する講演活動 ② 各種イベントへの参加

(2) 障害児者に対する支援事業

① 障害に関する講演活動 ② 季節に応じた体験型イベントの開催 ③ 各種イベントへの参加・実地調査

「障害児者・家族向けのチェアスキー体験イベント事業」

実施内容

【助成額】75万円

チェアスキー体験会(①2019年1月27日フッズスキー場、②2月17日札幌国際スキー場、③3月10日フッズスキー場)を計3回、計7名の当事者を対象とし、その家族・支援者も含め参加いただくことが出来た。あわせて、要望のあったシットスキー体験会(①2019年1月20日中島体育センター横、②月寒屋外競技場)も計2回実施し、幅広い方に屋外活動のきっかけとしていただくことができたよ考えられる。

得られた効果

今回の事業の目的であった「体験の機会をつくる」「冬季の外出のきっかけづくり」「自己実現の一助」の他にも、障がい種別をこえた交流の機会づくり、社会人の周知のきっかけをつくることができたよ考えられる。

今回の事業の対象となった肢体不自由児者、知的障がい者、発達障がい者児じゃ、普段「養護学校」と呼ばれる障がい種ごとに分かれた学校に通っていることが多く、それぞれの障がいをこえた交流があまりないのが実情だった。今回のイベントを通し、普段交流のない障害児者とのか関わりをもつことによって、相互理解のきっかけとなったと共に、当会としても新たな学びを得ることができた。

また、イベント実施の旨を事前にスキー場側を中心とした会場に周知することで、当日掲示物を用いた注意喚起を行っていただくことができ、安全にイベントを実施する一助となった。あわせて、リフトの待機時間等に、一般の来場者からチェアスキーに関する質問(「どういった物か」「どんな人が使うのか」等)を受けることも多く、受け答えを通し、チェアスキーに関する知識や安全面の配慮に関して周知することができたよ考えられる。今回のイベントを通し、利用したスキー場側にも「充実した支援体制があれば安全に実施可能」である旨をご理解いただくためのきっかけをつくることができたよ考えられる。これは、当事者の外出の機会づくり、環境づくりの1つとして効果があったよ考えられる。

問題点

「スキー体験イベント」が屋外での実施企画であったことに伴い、気候や気温によって実施日程の設定が難しかった。

次の課題

今回の事業では、障がい当事者を対象とし、体験のきっかけづくりとしたが、今後は介助を担う支援者側を対象とした事業も必要になってくると考えられる。

安全なイベント実施のためには、充実した体制が必要であり、そのためには知識、支援技術が一定量必要になってくるため、その習得のために講習会等の機会を設けることで、その普及につなげることができると考えられる。



特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター

<http://nakoso.net/>

【所在地】 福島県いわき市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

・被災者交流・生活再建支援事業

原発事故で非難した双葉町住民で埼玉県加須市から勿来地区に移り住んできた住民に対して、継続した訪問活動や支援活動を行っている。

・津波被災者と原発避難者へのサロン活動

津波によって公民館が流失した岩間町住民へのサロン活動、いわき市に仮設住宅が無く、集会所が無いため、当会事務所にて浪江町住民へのサロン活動、埼玉県加須市から移住してきた双葉町住民へのサロン活動、双葉町役場からの依頼で避難生活を続ける子育て世代のママサロンなどの開催を行ってきた。

・いわき支援学校くぼた校への支援活動

勿来高校演劇部とくぼた校の生徒が放課後活動としてコンテンポラリーダンスワークショップを、同じ指導者から一緒にレッスンを受ける活動を実施。障がい者と健常者という枠を取り払い共通のテーマでそれぞれの役割を身体表現することで、個々の可能性を追求する事業を行った。

「支援学校生の技術習得調査研究事業」

実施内容

【助成額】80万円

4月24日

福島県立勿来高校並びにいわき線学校くぼた校訪問。校長、教諭、クラブ顧問と会議開催

5月16日～1月28日(計10回)

染色ワークショップ開催

6月20日～2月6日(計5回)

作品作りワークショップ開催

2月14日、15日 スーパーの店頭にて作品販売を実施(作品はすべて完売)



得られた効果

① 波及効果について

この事業はいわき支援学校くぼた校と県立勿来高校を対象に実施しているが、いわき市を代表する進学校の県立磐城高校の校長が、この事業について高い評価を見せ、温室効果ガス削減であれば同じように廃棄されるパラシュートの廃材について活用できるのではないかと、自分の教え子が勤務する日本を代表するパラシュート制作会社との連絡を取ってくれることになった。

② 社会的価値について

障がいがあっても労働に従事し賃金を得ることで、社会保障費に頼らない生活を送ることが出来るようになるためには、本人の能力を見つけ出しそれに添った技術の習得を学ぶことが一つの方法であると考えている。近年障がい者アートや登録制のパラリンアートといった現代アート系が脚光を浴びているが、限られた一部の特殊才能を見出された人達か、あるいは家族の指導で血の滲む思いで技を習得した人であり、多くの障がい者は地道な積み重ねを行うことで身に付けた技術を活かし僅かな収入を得ることになる。

オランダのケアファームが農福連携での障がい者雇用を実践し、障がい者も健常者も分け隔てなく働ける環境を提供している情報に出会った。農業従事者の高齢化と後継者不足による耕作放棄地増加の問題と、自分のペースで働くことが出来る就労先の確保が課題となっている障がい者雇用の解決策として農福連携は、一つの方向性を見出すことが出来るとても日本的な課題解決方法だと考えている。

障がいがあっても社会の一員として働くことが出来る環境を創り、生きている喜びと充実した人生を感じられるようにすることが社会的価値の向上に繋がるものと考えている。

問題点

特になし。



次の課題

環境問題をテーマに活動していることから、温室効果ガスの抑制とエアバックが関連し再利用事業としての作品づくりに繋がってきました。環境がベースにあり福祉や農業や文化がクロスオーバーすることで様々な分野に波及することが出来ると考えています。

特に農業と福祉の連携については、今後取り組んでいきたい課題だと考えています。工場組み立てやオートメーション化された生産工場では全体の流れが優先されるが、農業では個人のペースで作業することが可能であり、半日作業でも認められます。種が芽生えて作物になり収穫することやその生育を見守りながら除草作業することが可能であり、水まきなどの世話をすることで作物への愛着を感じ、働く生き甲斐に繋がることが福祉の分野では大切なことだと感じています。

また、廃材という観点からはパラシュート帆布についても紹介をいただける機会を得ることが出来ました。エアバックもパラシュートも廃材は焼却処分の対象であり、地球温暖化の原因の一つになります。何より当会の事業について関心を寄せてくれたことと障がい者支援に具体的な協力を示してくれたことは大きな収穫でもあります。当会としても新しい素材についての知識などは持ち合わせていませんが、この機会を逃すことなく前向きに取り組むことで、この先に待ち受ける課題に正面から取り組む姿勢を堅持したいと考えています。



DET 群馬

<https://detgunma.wixsite.com/gunma>

【所在地】 群馬県伊勢崎市

【対象者】 肢体障がい者、難病患者

【日常の活動】

障害者が平等に社会参加することや、地域で共に暮らしていくためには障害者差別を改善していくことが重要。障害者が抱える問題(社会的障壁、差別、偏見、無理解、制度)を解決していくことを目的として活動しています。社会を変えるのに行政に頼るのではなく市民レベルから行動していくことで共生社会の早期実現に向かうと考える。ユニバーサルデザイン2020行動計画に示している”心のバリアフリー”を広めていくためにDETを実施しています。

「障害者を含むすべての人々が安心して暮らせる共生社会を創るための研修開催」

実施内容

【助成額】100万円

障害平等研修「DET」は心のバリアフリーを考えるグループワーク形式の発見型学習で、講師は認定を受けた障害当事者が進行役(ファシリテーター)となり障害の社会モデルの視点を受講者に持ってもらうことで自分の意識を変え、社会にある障壁を無くすための解決行動のできる主体者を創ることを目的とした研修です。

研修内容は前半(90分ほど)で障害の社会モデルの視点を獲得してもらう為に「障害とは何?」「障害はどこにある?」「問題の原因は?解決方法は?」という問いをイラストやビデオを使って演習を進めていきます。

後半は(90分ほど)障害とはこういうことだったのか!と、参加者が気づき発見したことをベースにしてグループごとに地域や学校での問題点を見つけ出し、解決の行動リスト作りをします。

実施先では時間的制約がある為、要望に応じて研修時間は90~180分の中で参加対象者に合わせたプログラム(各演習の時間を変更)にして実施しますが、基本的な内容は小学生も大人も同じです。



得られた効果

多くの学校で実施させていただけたことにより、教育委員会・行政職員・特に教職員の方々が子供達だけでなく自分達の意識を変えることの重要性を考えてくれるようになりました。

先生方も一緒に参加したことで研修による生徒の意識変化を目の前で体験し、さらに自分達の意識こそ固定された概念から抜け出せていないことに気づいてくれたようです。「障害者をついつい特別扱いしてしまう心が問題だった」「分離教育が大切なんだと思い込んでいる自分が障害を作っていた」「どんな子供でも一緒に地域の学校で同級生と学び育つ環境を作ることが大切」「障害児と共に過ごすことで周囲の子供達や大人までもが多くの学びを得る」などの感想をいただくことができました。

このように参加者(児童・学生)の変化する様子を見て大人が何かを感じとってもらえたことは研修をしていて嬉しいことでした。今回、大学、高校で多く開催できたことにより地域の障害者支援活動等へのボランティア参加に興味を持ってくれたり、地域や学校でのイベント等に障害当事者の方も参加しやすくしていこうという動きも出てきました。

高崎市では車いすの人が出かけ先でトイレや食事ができるお店情報をマップにしていこうとなりました。(2019年以降)このマップ作りにDET群馬のメンバーも一緒に協力することとなり、様々な地域での街作り活動にDET群馬も参加させてもらえることとなりました。

問題点

○参加対象者の年齢により研修の理解度、グループワークでの回答が大きく違う。

中学生～大学生・社会人は研修の理解度の違いはあまりありませんでしたが、小学校で1年生～6年生までが参加しての実施となると難しかった。

この研修の肝は、障害と障害者を同じだと思っている人の意識を変えることから入ります。障害って何？と問いかけて個々の回答を書いてもらうことで出発点を作り、研修会終了後は自分の中で「障害」ってこういうことだったのか！と、気づかせて行動に結びつけるプログラムにしていますが、低学年の子供達はほとんど障害者と話したことも見たことがない子が多く、そもそも障害者がなんなのかさえわかってない段階なのでかみ砕いて説明するのが難しかったようです。

○スタッフは誰とでも人手としてあればいいわけではない。

今回、学校側からの配慮によりスタッフ無しで実施を行った時もあった。私達ファシリテーターが沢山のグループに順番に廻って一緒に議論できない時はスタッフが「気付きの促し」のフォローをしている。その他パワポに合わせて配布物を配ったり回収して集めたりと短い研修期間で大人数をこなす為にはチームワークがとても大切であり、スタッフ無しでの実施は研修の終了時間オーバーや生徒の考える時間をロスしてしまったり、ファシリテーターも肉体的にとっても疲弊した。

次の課題

やはり課題は「研修費」です。

学校でのDET研修実施は非常に有効です。今後の共生社会を形成していくには子供達へのアプローチは単発実施でなく毎年、決まった学年の生徒に実施し続けていくことが一番必要なのです。特に推奨は中学1年生、高校1年生、大学1年生など学校に入ってきた最初の年代がもっとも有効である。それは研修を受けた生徒がその後2～3年学校に在学しているからです。

多様な人への「コミュニケーションの取り方や学校内の環境作り、後輩への接し方や理解しようとする心の形成された生徒を毎年毎年育て続ける事により学校内がすべての人が学びやすい環境へと変わり、卒業した生徒たちがよりよい未来の日本社会を作っていくからです。

しかし、学校での実施には生徒数も多いことや、実施時間を短縮して行わなければならないためにそれに合わせたファシリテーター、スタッフの人数を増やさないと研修効果が半減してしまいます。

講演会などならば講師一人で何百人でも請け負うことができますが、それでは「教える」「覚えてもらう」という従来の学習方法と変わらずなんの意味もありません。教わったことや聞いた事は人間すぐに忘れてしまうからです。

DETは「自分達で問題の原因所在を見つけることで解決の方法を考える」そして「行動に結びつける」発見型学習ですので、参加人数に応じた適切なファシリテーター数が必要となります。ファシリテーターとの対話も重要だからです。

学校実施の場合、ファシリテーターが6人～10人くらい必要なのですが、学校側の予算(無料～数万円ほど)では折り合いがつかないことが課題。

一度きりでなく毎年実施するには学校側がキチンと予算化もしくは県、市町村で予算確保をし、継続して実施ができるようにしていかなければならない。

この予算化についてはDET群馬でも群馬県議会などに要望書を提出しているがなかなか難しい。企業などに研修に取り入れてもらい、企業に有料実施した際の研修費の一部を学校開催費に充てることも考えている。



特定非営利活動法人京都難病支援パッションエ

<http://npo-passione.org/>

【所在地】 京都府京都市

【対象者】 身体障がい者、精神障がい者、発達障がい者、
難病患者

【日常の活動】

●難病者に対する就労支援

就労継続支援A型事業所の運営

【作業内容】

IT 関連

・クライアントのHP作成・管理 WEB デザイン ・他事業様の顧客管理システム等ソフトウェアの開発
・ネットオークションへの出品(受託有り)

物品関連

・草木染め商品や染色技術の開発及び商品制作・販路開拓 ・染色商品以外の商品制作・販路開拓その他
・難病啓発活動 ・(パソコンスキルアップ等)各種研修の実施他

●難病に関する情報提供

NPO 法人京都難病連と京都府難病相談・支援センターと連携する。

●難病患者・家族会の事務局運営

NPO 法人京都難病連と連携する。

「難病啓発イベント パッションエフェスタ」

実施内容

【助成額】9万円

テーマ「だけど涙が出ちゃう 難病なんだもん！」

～ゆったりまったり動画を見たり難病トークしましょ～

2019年3月10日(日)13:00 会場 13:30 開演

ハートピア京都 第5会議室

講演パート(13:00～14:30)

1. 難病カフェ趣旨ミニコント 2. 笑いヨガ 3. 難病の説明 他

おしゃべりパート(14:45～16:15)

★難病全般・就労・家族のテーマで ★各テーブルで盛り上がった話題を発表 他
パート分けして話すネタ

★就職・仕事 ★難病全般 ★家族 他



得られた効果

★笑いヨガをおこなったことで、今後もパッションエの笑いヨガに参加したいという声があった。

★イベント前(3月6日)と後(3月11日)に京都新聞に取り上げていただき、難病で困っておられる方やイベントに興味のある方から、沢山の応援のお言葉や問い合わせなどの反響がありました。メディアに取り上げてもらうことで、様々な方の目にとまり、難病や難病患者の就労支援や私どもの活動に興味を持ってもらえたと思います。京都新聞に掲載された際、私どもが運営するパッションエ工房のサイトや難病啓発マンガブログ「雨二モ負ケズ病二モ負ケズ」の訪問数が急激に増えた。

問題点

参加されたお客様の中で、難病が原因で精神的にとっても悩んでおられる方がおられました。そうした方へのしっかりした専門的な支援を準備できていなかったです。

次の課題

精神的なケアが出来るプロの方に出席していただき、専門的なアドバイスで、難病で悩んでいる方の心のケアにつなげたいです。「今後もパッションの難病カフェをおこなってほしい」「次回もぜひ参加したい」という声が沢山上がっているのです、今後もおこなえるように対応していきたいです。



特定非営利活動法人福祉ネット寿

<http://rokko-fukurou.com/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

- ① 家族介護事業:居宅介護・重度訪問・移動支援
- ② 児童発達支援事業・放課後等デイサービス
- ③ 保育所等訪問支援事業
- ④ 障害児相談計画・モニタリング
- ⑤ 神戸市地域拠点型一般介護予防事業
- ⑥ 家族支援:大学講師。専門職が家族の困り間に寄り添い相談に応じている。(月2回)
- ⑦ スタッフへの人材育成:事例検討(大学講師など)
- ⑧ 親と一緒に育てる(課題などの支援方法を共有)
- ⑨ 道路有償運送法による支援
- ⑩ 専門職による検査・相談業務

「“障がい児童の困り感を地域の教育・福祉が連携するには” 研修会」

実施内容

【助成額】36万円

第1部 若宮英司氏講演会 「～小児科医の視点から～困った子ではなく、困っている子」

第2部 松本恵美子氏講演会 「保護者を先生方のパートナーへ」(保護者支援・相談事業)

得られた効果

- 学校・幼稚園の先生以外の児童発達支援・放課後等デイサービス、福祉関係の人にも参加してもらうことで、地域支援につながった。
- 後援をお願いした神戸市・神戸市教育委員会の担当者と相談を重ねることでつながりができ、事業を評価してもらった。
- 公的機関・民間機関にチラシを配布したことで、事業所にも興味を持ってもらえ、神戸市以外にも認知してもらえた。

問題点

当初予定していた会場(あすてつぷKOBEBE)をおさえられず、六甲アイランドの会場(神戸ファッションマート)に変更した。会場費が高く、参加者の交通費負担も大きくなってしまった。

次の課題

- 小中学校からの参加者が少なかったため、参加しやすい日程を考えることが必要。
- チラシ配布や情報発信の方法を再検討すべき。



TEDxKobe 実行委員会

<https://tedxkobe.com/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 肢体障がい者、聴覚障がい者、視覚障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

地域で活動されている様々な方にお会いし、その方独自の「アイデア」をお聞きし、そのアイデアをTEDxのプラットフォームで広げるべく、トークとしてキュレーション・コーチングを行います。（スピーカー候補の発掘、スピーカーキュレーション・コーチング）また、年に一度のTEDxイベントのため、チームに分かれて準備を進めています。（空間デザイン、音響照明映像等のテック周りの準備、ビジュアルデザイン、ウェブサイトやSNSでの情報発信、支援くださるパートナー企業との連絡調整、過去のTEDxイベント参加者を中心とした関係性構築、新たな参加者募集・やり取り等）

「カンファレンスイベント『TEDxKobe 2018』の開催」

実施内容

【助成額】24万円

神戸から独自の価値あるアイデアを発信し、世の中をより良く変えていくためのプレゼンテーション形式のカンファレンスイベント「TEDxKobe 2018」にて、「障がい」という壁によって「伝わらない」ことを無くすために、木口福祉財団さまの助成金を活用し、以下の機会を用意させていただいた。

(1) 聴覚障がい者の方々への「手話通訳」の用意

特定非営利活動法人神戸ろうあ協会手話派遣センターのご協力により、延べ6人の手話通訳者の方に会場にお越しいただき、計12人の登壇者のプレゼンテーションを手話通訳していただいた。これにより、計8人の聴覚障がい者の方々にも当該イベントでのアイデアを受け取っていただき、より良い社会実現に向けてのヒントにさせていただけた。

(2) 日本語⇄英語の言葉の壁を感じているの方々への「同時通訳」の用意

言語によるコミュニケーション障壁も避けては通れない大きな課題である。この障壁を越えるために、3人の同時通訳者(個人)の方々にご協力いただき、全12人のプレゼンテーションの同時通訳をしていただいた。機材の都合により20台の同時通訳機しか用意できなかったが、20人の方に利用いただくことができた。

(3) 全参加者への「要約筆記」の用意

(1)の手話通訳も、(2)の同時通訳も用意できたこと自体は大きなことだったが、全ての参加者にインクルーシブに用意できる機会として、12人の登壇者のプレゼンテーション内容をリアルタイムに要約してスクリーンに表示させる「要約筆記」の仕組みを導入することができたことが良かったと感じている。というのも、聴覚障がいをお持ちの方全てが手話を使えるわけではない上、同時通訳も通訳機の台数分しか使っただけでなかったため、それらができない方にも文字を通して理解いただける機会を用意できたことが大変良かった。これにより、TEDxKobeの目指す「価値あるアイデアを広げる」ことにも大いに役立ったと感じている。

得られた効果

初めて実施した「手話通訳」「要約筆記」だったが、聴覚障がい者の方だけでなく一般の方からの評価も高く、今後のTEDxKobeのイベントでも用意させていただくようになったこと。

また、「聞こえないこと」に対するスタッフの意識が大きく変わり、普段からのコミュニケーションのあり方に意識するようになったことが大きい。なお、TEDxKobe 2019に向けての準備の中で、聴覚障がい者の方の中からも登壇者を選び、登壇していただくという動きが生まれたことも大きな変化だったと言える。

問題点

特になし。

次の課題

今回初めての申請・利用をさせていただいたが、事後の報告が大変遅れてしまい、ご迷惑をおかけしてしまった。

今後、改めて申請をさせていただく際には同様のことがないように、心したい。

特に、TEDxKobe 自体が法人格を持たない運営であることの脆弱性が露呈したと考えており、この点での改善も視野に入れて活動を継続していきたい。



公益社団法人兵庫県精神福祉家族会連合会

<http://www.hyokaren.or.jp/>

【所在地】 神戸市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

■精神保健思想の普及・啓発に関する事業

- ①精神保健福祉研修会(兵庫県委託) ②機関紙「兵家連」の発行(兵庫県委託)
- ③こころの病家族教室(兵庫県委託)

■精神保健福祉に関する相談事業

- ①電話相談事業 ②こころやすらぐひろばの開催(県下7か所)

■精神保健思想の普及・啓発に関する事業

- ①精神保健福祉促進研修会近畿ブロック大会 ②家族による家族教室担当者研修会の開催
- ③WEBサイトの運営 ④刊行物出版、書籍の販売、ビデオの貸出等

■精神保健福祉に関する相談事業

- ①精神障害者相談員養成研修

■精神障害者の福祉増進のための調査研究事業

- ①「メリデン版訪問家族支援とは」等の講演会開催

■関連団体との連携に関する事業

- ①兵庫県議会議員精神保健研究会開催 ②神戸市議会議員精神保健研究会開催

■その他の目的を達成するための必要な事項

- ①兵家連基金の貸付業務 ②その他

「第11回みんなねっと全国大会開催費用の一部」

実施内容

【助成額】90万円

11月26日(月)

1. 基調講演 愛知県立大学准教授 山田浩雅先生より『精神疾患を正しく理解するための教育の必要性について』
～何故日本では、精神疾患の教育が進まないのか、世界はどうか～
2. 特別講演 東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター センター長 糸川昌成先生より『心とは何か』
～物質と物質でないもの～ 他

11月27日(火)

第1分科会

『始めてます！こころの不調・病気を学び回復を支える授業～精神疾患の方への偏見や事件の解決のために～』

第2分科会

『当事者の力、自立と経験を活かす(ピアサポート活動)～今後のピアサポーターの活動が安心して発展して行けるように～』 他

得られた効果

1. 今回の全国大会の実施により兵庫県内の家族会の活性化を図ることが出来た。神戸市開催の精神保健福祉セミナーも従来よりも多くの申し込みがあり、全国大会開催の効果ではと考えている。
2. 兵庫県看護協会と初めて交流することが出来、平成31年度に引き継いで大きな大会を開催する予定であるが、看護協会の会場を安価に借用することが出来、且つ次回大会で連携していけるようになった。
3. 兵庫県きょうされんと初めて交流することが出来、福祉事業所との連携により活動の共有化、情報交換などを行うことが出来るようになった。今後の県や国への要望活動も共同作業が期待できる。
4. 各地の訪問看護ステーションとも情報交換が出来るようになった。
5. 兵庫県内の福祉系大学と初めて連携をとることが出来、今後の活動範囲を広げることが出来た。

問題点

特になし。

次の課題

1. 兵庫県内の家族会をのみの活動では、中々発展が図れませんが、今回の全国大会の開催により多くの関係機関と関係づくりを構築することが出来ました。これらのネットワークを活用して、情報交換と活動範囲を広げていきたいと考えています。
2. 家族会は、高齢化により一部衰退の傾向がありますが、新しい機関との関係づくりを基に活動を活発化して、家族会会員の増加を図り、活性化に努めたいと思います。

第11回全国精神保健福祉家族大会 in 兵庫
「精神疾患の本人と家族の明日を切り拓くために」

みんなねっと 兵庫大会

泉政150周年記念の神戸港・史跡巡りできる兵庫県大会へ！

2018年 11月 26日月
神戸ポートピアホテル 南館 1F ポートピアホール
(078)302-1111 JR三宮からポートライナー乗り換え徒歩15分(地下道直下直上)

11月 27日火
神戸国際会議場 (078)302-5200
市見京瀬駅下車徒歩1分

HYOGO 150th Anniversary

参加費 **3,000円** 障がいのある人 **500円**
学生 **1,000円** (高校生以下は無料)

兵庫大会事務局 〒651-0024 兵庫県神戸市中央区西川町2-1-13 1F
兵庫県精神保健福祉協会 敷地内(西川町2-1-13)4階
TEL: 078-240-1327 FAX: 078-240-1387
E-mail: hyakou@hbfhs.com 05.01.9開会

主催：公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 (みんなねっと)
公益社団法人 兵庫県精神福祉会連合会 (ひょうかれん)

協賛：(一財) 神戸視覚・聴覚コンベンションビューロー

バディウォーク関西

<https://bw-kansai.com/>

【所在地】 兵庫県尼崎市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

○バディウォークの開催(ダウン症の啓発活動)

「バディウォーク関西 in 大阪2018」

実施内容

【助成額】100万円

【日時】2018年10月28日(日) 13時～16時

【場所】大阪城公園 太陽の広場

【内容】13時～開会式

13時30分～ウォーク(太陽の広場から、近くの噴水を折り返して戻ってくる 徒歩約20分のコース)

14時30分～ステージ

チャチャチャバンド

鈴木凜太郎

アニマルコミュニケーション

インスハート

15時45分～閉会式

【出展】ぬりえコーナー、幼児の遊びコーナー、紙製サンバイザー制作、ハンドマッサージ、ネイル、ドッグセラピー、タイムカプセル制作、似顔絵、ボディペイント、福祉グッズの展示、スクワットコーナー、など。
物販、飲食はなし。



得られた効果

参加者が予想していた1000名を大幅に超え、2000名もの方にご参加いただくことができました。

NHK ニュースにも取り上げていただき、大きな反響がありました。

開催するまでは、バディウォークの認知度が低く、ウォーク=デモ行進、のように捉えられるのではないかと心配をしていました。

しかし、ご参加された方から「楽しかった」「みんなに会えて嬉しかった」「ダウン症の方とふれあえて良かった」というお声をいただき、デモ行進のようなイメージはないことが分かり、安心しました。

社会的価値を提供できるまでは、まだ遠い道のりだと思います。

健常の方が普通に出来ることがダウン症、知的障害のある方は簡単には出来ない。そのために、格下に見られたり、バカにされたりすることがないように、皆さんの意識が変わっていくことを願っています。

問題点

実行委員の子どもがまだ小さく(2歳～9歳)手がかかるため、当日の進行、運営に専念することが難しかった。



次の課題

大きな規模のイベントになりました。

運営についてイベントの専門家ではない当事者の親だけで、運営することの負担の大きさを痛感しました。

仕事の休みの日や合間に、こなせる量ではないと思いました。

資金面、運営面、どうしたらよいか、答えが見つかっていません。

行政の方と共催などにさせていただけるのかなど、検討しなければと悩んでいます。



特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会

<https://hyogohoh.jimdofree.com/>

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

【権利擁護】

中途失聴・難聴者のコミュニケーション支援を行なう要約筆記者の派遣事業を行なっています。また、要約筆記のレベルアップを図るため県・市町の開催する要約筆記者養成講座への講師派遣事業も実施。また、中途失聴・難聴者が参加を望む行事の主催者に要約筆記の配置を交渉、中途失聴・難聴者の人権を守る活動を行なっています。

【調査研究】

音声認識アプリを試験的に導入し、難聴者の補聴支援にどの程度役立つのか、あるいはどのような場面で効果があるのかを見極める、検討委員会を立ち上げ検討しました。。

【情報支援】

毎年開催する「兵庫の集い」での研修、「新年一日交流会」での会員相互の情報交換や交流活動を行なっています。また、機関誌を年4回発行。さまざまな情報を会員に届けています。

【余暇支援】【スポーツ・文化活動】

「野外見学」や子どもも参加できる「明石焼き体験」などに要約筆記をつけて実施。通常は要約筆記がつかないため参加できないイベントを、参加できる形で企画・開催。主催者に対する啓発にもなっています。

「第29回中途失聴・難聴者兵庫の集い in 宝塚開催費用」

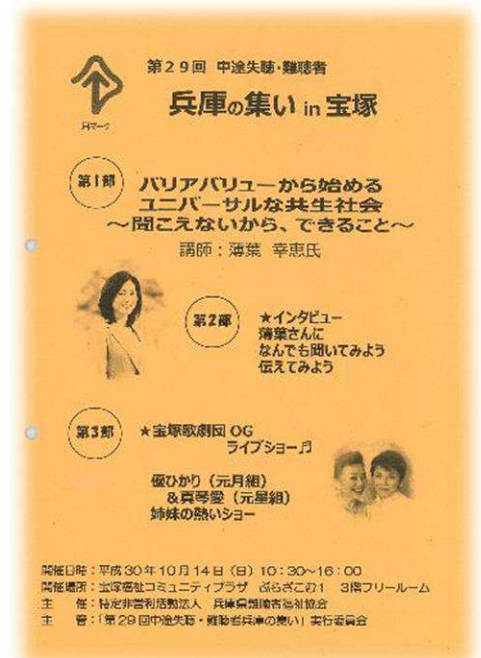
実施内容

【助成額】8万円

- 4/1 第1回実行委員会 会場確保済。講演内容や講師依頼について
・後援名義依頼状作成 ・実行委員会の役割について
- 4/14 第2回実行委員会
・大会メインテーマの検討 ・予算委について検討 ・広報:案内チラシの検討
- 6/23 第3回実行委員会
・後援名義借用依頼・来賓の確認 ・「予算について」参加費の決定
・「内容・時間配分について」タイムスケジュール、内容、インタビュー
・「広報」案内書、ビラの確認、広告依頼書面
- 8/4 第4回実行委員会
・「内容、時間配分について」ステージ以外の企画案、来賓挨拶文の到着状況の確認
・「広報について」当日資料の確認
- 9/30 第5回実行委員会
・機材調達、協力員の調達、打合せ
- 10/13 当日配布資料の袋詰め作業 機材搬出
- 10/14 当日 機材搬入、会場設営など集い全般
- 12/8 反省会(未清算金支払い等)

得られた効果

- ・広報に力をいれたので、県内の行政・社協・一般などへの啓発になった。
- ・行政担当者を招待したことで特にバリアバリューという先進的な考え方に関心を持ってもらえた。
- ・実行委員を始め、開催地の難聴者の意識が高揚した。
- ・社会全体が取り組むべきとの認識が広まった。



問題点

参加者が目標に達しなかった。

理由:難聴者協会会員の高齢化による会員減少。

広報に力をいれたが、一般会員の申し込みが少ない。

次の課題

- 参加者の動員方法について(特に地域協会長・サークル長の協力強化)
- 高齢者難聴者にも参加しやすい場所・内容を考える。
- 若い難聴者の掘り起こし。

特定非営利活動法人LIC

<https://www.npo-lic.com/>

【所在地】 兵庫県西宮市

【対象者】 聴覚障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

■障害者総合支援法に基づく事業

- 地域活動支援センター 手話教室や交流を開催しています。
- 一般相談支援(地域定着支援・地域移行支援)
- 特定相談支援

■児童福祉法に基づく事業

- 障害児相談支援

■西宮市障害者あんしん相談窓口共同事業に基づく事業

- 相談支援事業

①聞こえの相談会 ②何でも相談会(フリートーク、茶話会、ミニセミナー)

■聴覚障害者の権利を守る運動、通訳制度の充実や広く社会に情報保障を求める交渉をしています。

- 通訳派遣事業 ○啓発・講演活動

■学校教員向け研修や、小学生向けに、聴覚障害者と触れ合い、理解を促す啓発イベント等を開催しています。

「聴覚障害者向け介護職員初任者研修 16日間」

実施内容

【助成額】46万円

平成30年9月30日～平成31年1月20日(毎週日曜日、全16回)未来ヶアカレッジ梅田校で開催された介護職員初任者研修において、聴覚に障害を持つ受講生のために、手話通訳やPC文字通訳を付ける事業を実施した。初回～第8回までは座学で専門用語も多く、文字を見返しつつ理解を深めたいという要望から、PC文字通訳を付けた。第9回～第15回は実技で動き回るため、臨機応変に場所を移動し、対応できる手話通訳を付けた。

しかし、手話通訳を見ながらテキストに線を引くのが困難だったため、一日だけ一部にノートテイカーを入れ、テキストの線引きを担当してもらった。

それ以後は待機の手話通訳者に線を引いてもらうようにした。最終回は実技はなく、短時間の講義と試験があったため、PC文字通訳を付けた。

得られた効果

一般の受講生は普段聴覚障がい者に接する機会がなく、聴覚障がい者とどう関わったらいいのかわからない人も多い。聴覚障がい者と一緒に講座を受け、コミュニケーションを取る中で、接し方を学べた人は少なからずいるようだった。また、PC文字通訳を初めて見た人もいたようで、聴覚障がい者支援方法の周知にも役立った。

問題点

受講生の要望もあり、全講座にパソコン及び手話通訳を付けたかったが、教室の広さの問題で実現できなかった。

手話通訳・PC文字通訳付き
介護職員初任者研修

今まで資格取得をあきらめていた聴覚障害者の皆さん、**朗報です!!**
木口福祉財団より助成をいただき、格安の通訳料(1日たったの1,000円!!)で**介護職員初任者研修**を受けられるようになりました。
この機会にぜひご受講ください!!

参加費:60,500円
(内訳)
研修受講費:44,500円
通訳料:16,000円

締切:8月29日(水)
定員:5名
※一般受講者の申し込み状況によってキャンセル待ちとなる場合があります。ご了承ください。

申込先:特定非営利活動法人LIC
TEL:0798-34-5933
FAX:0798-61-2447
MAIL:chokaku@npo-lic.com

↑HPはこちら

次の課題

聞こえる人向けの講座のため、先生が早口でテキストを読み上げる場面があったり、話を聞きながらテキストへの書き込みやラインマーカーを求められる場面があったりして、聞こえない人が授業に付いていきにくい状況があった。未来ケアカレッジの担当者から各先生方へ聴覚障がい者と通訳者が受講する旨を伝えてもらっていたが、配慮してくれる先生もいれば、全く気にしていないような先生もいた。講座の時間も限られているため、2人のためだけにスピードを落としてもらったり、待ってもらうことが難しく、通訳者側でできる限りのフォローはしたものの、健常者と一緒に講座を受ける上での課題だと感じた。

島根県ろうあ連盟女性部

【所在地】 島根県松江市

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

料理教室、一般教養学習会、健康医療学習会、文化研修会などの研修会・学習会を1年に数回開催しています。

「第48回全国ろうあ女性集会における記念講演会及び分科会の開催」

実施内容

【助成額】100万円

- ・実施期間 平成30年10月26日(金)～28日(日)
- ・実施場所 島根県民会館
- ・参加者 全国各地(県内外)のろうあ女性及び手話通訳者等
- ・実施者とその人数 実行委員20名及び事務員2名
- ・実施内容 「第48回全国ろうあ女性集会」
 - ・社会見学 松江市、出雲大社
 - ・開会式典
 - ・記念講演 テーマ「出雲の比売神ひめがみの魅力」 講師 NPO法人出雲学研究所理事長 藤岡大拙氏
 - ・手話語り部 テーマ「民話の手話語り・嫁が島・耳なし芳一」 講師 出雲かんべの里 岡村悦子氏(手話通訳者)
 - ・分科会
 - 第1分科会 「家庭と教育」 ミニ講演「聞こえにくい子どもたちの将来のために」
助言者 福島朗博氏(島根県立松江ろう学校 校長) 参加者 50人
 - 第2分科会 「くらし」 ミニ講演「ジェンダーって何？」
助言者 吉野幸代氏(一般財団法人全日本ろうあ連盟理事) 参加者 78人
 - 第3分科会 「豊かな老後」 ミニ講演「今すぐ始める終活～エンディングノートを使ってみよう～」
助言者 葛西浩二氏(一般社団法人終活サポーターズ協会代表理事長) 参加者 110人
 - 第4分科会 「女性活動」 ミニ講演「青年部から学ぼう」
助言者 廣田喜春氏(一般財団法人全日本ろうあ連盟 前青年部長) 参加者 41人
 - 第5分科会 「労働」 ミニ講演「働く幸せ～制度を利用して実現～」
助言者 杉本好美氏(公益社団法人大阪張力障害者協会労働グループジョブコーチ) 参加者 32名

得られた効果

- ・全国規模の女性集会が島根県で初めて開催されたことで、地域の新聞に掲載されたことで、地域社会に広く啓発できました。
- ・開会式典には島根県知事溝口善兵衛氏にご臨席頂きました。聴覚障がい者の福祉の現況や活動、手話は言語であり必要なもののご理解を頂きました。
- ・分科会では参加者も多く、活発な意見がでたり、質疑応答などに時間がかかった分科会もありました。それぞれの分科会で知識が深まり、今後の活動において、有意義なものになったと思います。特に第1分科会では「聞こえにくい子どもたちの将来のために」というミニ講演に島根県立ろう学校長に講演頂いたこともとても良い分科会だと思います。ろう学校の現状などお話頂き、聞こえにくい子どもたちを支えておられる学校長ならではの分科会でした。聞こえにくくても周囲の理解とサポートがあれば、伸びていける、やさしい社会になることを願いたいと思いました。
- ・記念式典も地域性の関わりのある内容でした。島根のイメージを全国各地からいらした方々にわかって頂けたも

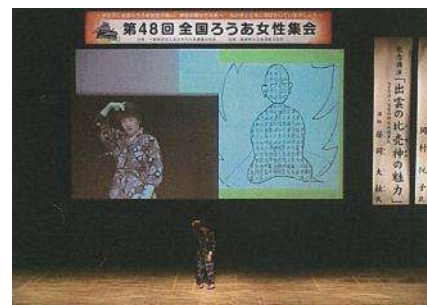
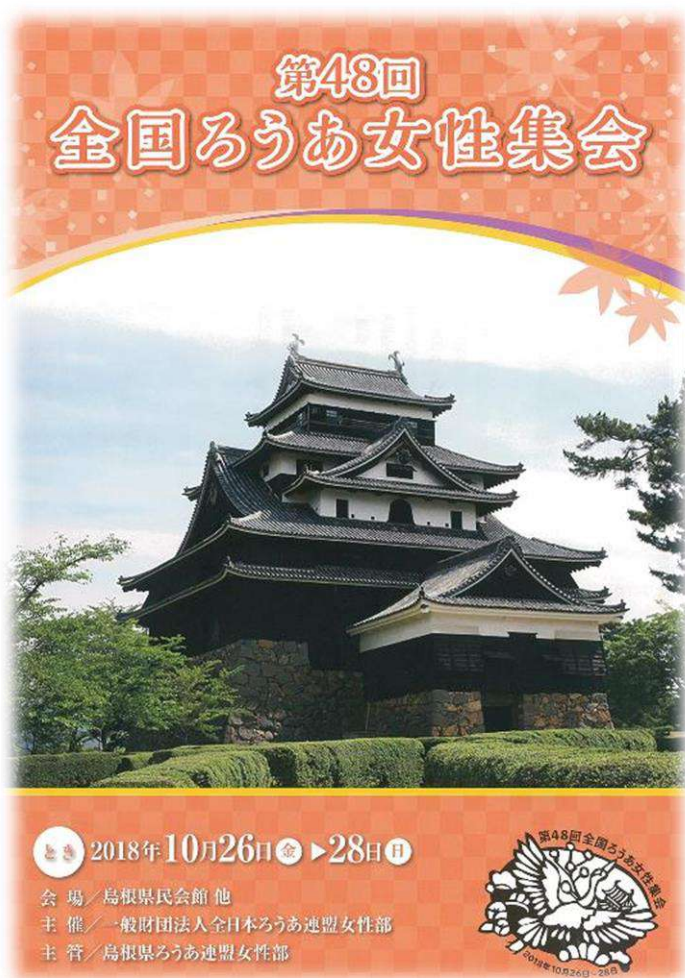
問題点

参加者が 500 人以上を予定したところ 480 人以下(473 人)となった。

次の課題

- ・手話は言語であり、ろうあ者の命であることを心にとめ、手話が広がり、周囲のサポートがあれば、社会の理解があれば、一般のきこえる人となんらかわりのないことを、もっと広く社会に啓発していく必要があると思いました。
- ・実行委員 20 名で準備から活動していましたが、もっと活動して頂ける人を確保していけるようにしたい。
- ・ろうあ者への見方はまだまだ差別があったり、理解が足りないことでさまざまな困難があったりします。

今回の集会をきっかけに、ろうあ者の社会的な権利などをきちんと受けることができるようにしたいと思います。



特定非営利活動法人岡山県視覚障害者自立支援センター

<http://ovssc.sakura.ne.jp/>

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

■視覚障害者・児を対象とした

●同行援護、移動支援、居宅介護などの障害福祉サービス

●訪問介護、介護予防訪問介護

●福祉有償運送 同行援護従業者養成研修

■視覚障害者向けパソコン講座 ■福祉機器展示会、講演会、各種相談受付

■視覚障害者対象の旅行、お花見、クリスマス会など

「同行援護従業者養成研修」

実施内容

【助成額】88万円

平成30年11月19日～20日

同行援護従業者養成研修一般課程

講師 菊入昭

補助員 正条、岸、人見

AM9:00～ 講義と演習 「視覚障害とは」～「同行援護とは」など学び屋外へ出て演習(アイマスク着用)



平成30年12月10日～12日

同行援護従業者養成研修応用課程

講師等 一般課程と同じ。

一般課程修了者が、さらに一歩ふみこんだ「視覚障害者の心理」や実際にアイマスクを着用して感じた事や同行援護を行ってみて、改善できる事などを話し合い実践する。

6人の方が応用課程を終了されました。

得られた効果

バス会社の協力を得て、バスの昇降を練習させていただいたので、バス会社の方と視覚障害や同行援護について話し合えました。以前にも、ステップの数をバスの案内(車内放送)で言って欲しい事を伝え、今は放送してくださっています。ただ、放送する順番が分かりにくい旨伝えました。また、高島屋の階段を使わせて頂く許可を得ることが出来ているので、社会にも理解を頂けて来ていると感じています。

問題点

受講者が予定より少なかった。

→募集期間が半年くらい前からあれば、予定の調整等ができるという声を聞いた。

次の課題

・新たに資格を取りたいという人材の確保。

・ガイドされる側の研修も必要。

・今後の資金源。



特定非営利活動法人玉島たんぽぽ

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 肢体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

市町村事業の「地域活動支援センターⅢ型」事業。

- ・ 障がい者の日常生活や、社会生活を総合的に支援する事業内容。
- ・ 1日の生活リズムや食事、日中活動を通じて、元気ある毎日を過ごせるように支援しています。

「事業所パンフレット作成」

実施内容

【助成額】 10万円

- 2018年8月～ 株式会社クロスにデザインを依頼。
 9～12月 写真や資料などのデータを渡し、
 何度も打ち合わせをする。
 12月 完成。

得られた効果

A型の事業所の件があり、総合支援法の改正もあってか、
 昨年からⅢ型の事業所への問い合わせが多くなりました。
 これを機会にⅢ型の事業所の良さをアピール出来たらと思っ
 ています。

問題点

特になし。

次の課題



今、パンフレットが出来上がったばかりなので、実質的な効果はこれからだと思います。これからのイベント、
 今まで常設で商品を置かせて頂いている所に一緒に置かせてもらいます。
 このパンフレットを見て、ここの事業所やさりを織りに興味を持ってもらえる方が、増えてくれるといいなと思っ
 ています。

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

<https://unevennpo.wixsite.com/decoboco>

【所在地】 熊本県熊本市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

- 余暇支援:余暇活動の相互サポート(運転、資金等)
- セルフヘルプ活動:定例会のバックアップ(月3回程度)
- その他:講演・研修活動

「被災地での発達障害理解促進・スキルアップ支援事業」

実施内容

【助成額】100万円

・研修会

平成30年12月16日、熊本市中央区の大江公民館で研修会を行った。講師に東京、京都の精神障害当事者、沖縄の発達障害当事者、京都の障害者支援者/大学講師を招いた。

研修会では、講師より、精神障害当事者団体が、障害当事者が不利益となりかねない力にどのように働きかけを行ったかの話に基づき、障害当事者団体の運営の話に発展させた。全体を通して講師と参加者が同じ目線で対話することを主眼とし、講師も参加者の中に混ざる形をとった。障害特性等への配慮の形を模索、障害や病気の有無にかかわらず、座って話をしたり聞いたりすることがつらくなった人は途中横になったり、そのままの姿勢で話をしたりしても良いこととした。また、出入り自由にし、自分の体調等の都合で途中参加や途中退場も可能である旨アナウンスを行った。集中の仕方が多数派と異なる人の参加も見込まれるため、スマートフォンを見るなど他の事をしながらでも良いとした。

参加者からは「はじめて精神障害者の取り組みを知った」「話しやすかった」「また機会を設けてほしい」などの感想をもらうことができた。当団体、また連携団体の今までの人脈が生きた会になったと思われる。

(講師・・・山田悠平氏(東京都大田区で精神障害当事者の会「ポルケ」を運営)、桐原尚之氏(全国精神病患者集団運営者として障害当事者運動に精通)、高原里緒氏(発達障害当事者、自立生活センター職員として障害者運動に携わる)、長谷川唯氏(立命館大学講師、重度障害者のヘルパーを行いながら障害当事者と共に活動を展開)

- ・障害当事者の学び
- ・他地域の当事者会との交流
- ・啓発冊子作成

得られた効果

冊子作成

- ・作成過程での発達障害当事者と周囲の人々双方の学びにつながった。
- ・「正直、原稿を頼まれたくなかった」「(当事者の一人を)嫌いです」とはっきり言われたりもした。婉曲に避難非難されることもあった。好き嫌いや不快さの原因を発達障害に帰されることは多かったと感じた。発達障害者の絶対数が増えることが一時的な解決になるのかもしれないが、少数派はいつでも存在し排除されるものだと思える。暫定案として、より多くの発達障害当事者が発達障害の情報源となることが状況の改善につながるのではない。

研修会の開催

- ・他地域から講師を招いたことで情報交換の場になった。



問題点

1. スタッフの不足

事業に協力できるスタッフが仕事の都合等で不足したため、スタッフとボランティア各人の負担が比較的大きかった。

2. 資金調達

講演会での収入が少なかった。参加者を十分に募れなかったことと、その場での呼びかけのノウハウが足りなかったことが原因と思われた。

次の課題

1. 発達障害理解の難しさと当事者不在の問題

発達障害の特性を説明する情報は多く、ある程度固定化されてきているが、それらは専門家によって提唱されたものがほとんどであり、当事者の執筆した本も増えているが、影響力がことなる。情報が一定程度社会に浸透したため、身近にいる発達障害者は各人の持っている発達障害の知識やイメージを通して理解されるようになりつつあるのではないかな。

2. 当事者活動継続の困難性

障害当事者はその多くが社会的弱者であり、経済面に厳しかったり、精神・身体的な弱さがあったり等の課題を抱えている場合が多い。そのため、活動に対する意欲があっても様々な理由で継続が難しい場面が生じやすい。しかし、当事者以外の人の声が通りやすい社会で、当事者の視点を持ち続けるためには基本的に当事者が一定以上の割合でメンバーに含まれてはならない。当団体も、当事者が当事者のままで活動を継続する困難をどう解消していくか、引き続き手かりを探さなければならない。



平成30年度 選考委員

選考委員長

立木 茂雄

同志社大学 社会学部社会学科 教授

高橋 守雄

ひょうごボランティアプラザ 所長

中田 智恵海

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター 代表

松本 博子

社会福祉法人兵庫県共同募金会 事務局長

山口 一史

公益財団法人コープともしびボランティア振興財団 理事長

横須賀 俊司

県立広島大学 保健福祉学部人間福祉学科 准教授



公益財団法人木口福祉財団

〒659-0051 兵庫県芦屋市呉川町14番10号

TEL 0797-21-5150

FAX 0797-35-4500

e-mail josei@kiguchi.or.jp URL <http://www.kiguchi.or.jp>

2020年2月発行